

第12分科会

高等教育で本当に「実践力」は身につくのか？

報告者

山脇 正永（京都府立医科大学 総合医療・医学教育学 教授）

上原菜穂子（京都市教育委員会 京都市総合教育センター 教員養成支援室 指導主事）

松宮 孝明（立命館大学法科大学院 法務研究科 研究科長）

青谷 正妥（京都大学 国際交流推進機構 国際交流センター 准教授）

コーディネーター

村田 利裕（京都教育大学 教育学部 教授）

大学教育と言えば、「座学」のイメージが強いのではないだろうか？学生は、先生の話しを聞くだけの“講義”形式であり、受け身で聞いてペーパー試験で合否を判定するというのが教育の基調なのである。

知識が十分あるはずの学生なのに、医学部では、苦しむ患者に向き合うことが出来なかったり、教育学部では、子どもや保護者の思いを受け止めることが困難であったり、また英語力のように長年学んできているのに一向に実力が発揮できなかったりなど、複雑多岐な「実践場面」に有効に対処する資質・能力が育てきれていない実情が存在している。

これに対して今日、大学教育も連携・協働の指導体制を組んで、「実験」・「実習」・「討議をする演習」・「個人対応の教育システムの導入」などや、抜本改革としてモデルコア・カリキュラムを開発するなど、教育力の強化に着手している。この分科会では、「実践力」の育成を目指した、さまざまな学部や組織の工夫しておられる実情と直面する課題を明らかにし、大学教育の可能性をさぐっていく。

<第12分科会>

高等教育で本当に「実践力」は身につくのか？

参加人数 35名

報告者

第1報告者 山脇 正永 (京都府立医科大学 総合医療・医学教育学 教授)

第2報告者 上原菜穂子 (京都市教育委員会 京都市総合教育センター 教員養成支援室 指導主事)

第3報告者 松宮 孝明 (立命館大学法科大学院 法務研究科 研究科長)

第4報告者 青谷 正妥 (京都大学 国際交流推進機構 国際交流センター 准教授)

コーディネーター 村田 利裕 (京都教育大学 教育学部 教授)

I 第12分科会で取り上げた問題

大学教育と言えば、現在でも「座学」のイメージが強いのではないだろうか？それは、先生の話しを聞くだけの“講義”形式である。黒板の前で巧みに弁舌をふるう大学教員の講話を聞いたとしても、主たる学びの軸は学生にはなく、「講義」を「受け身」で聞いてペーパー試験で可否を判定するという関係が教育の基調なのである。そこには、高度な知識的内容を与えるのが高等教育の使命であり、存在価値であるという確信が底流に流れている。そして知識は、本人の中で自然と総合化されて活用されるという予定調和的立場が前提となっているのである。

ところが、知識が十分あるはずの学生なのに、医学部では、苦しむ患者に向き合うことが出来なかったり、教育学部では、子どもや保護者の思いを受け止めることに困難があったりなど、総合的な専門職性が身につけられていない実態がある。大学教育も近年「実践力」の育成を目指して、「実験」・「実習」・「討議をする演習の導入」など、授業レベルの内容と方法の工夫を進めてきている。1991年の「大学設置基準の大綱化」がスタートラインとなり、大学が、社会の期待やニーズを受け止め、弾力的かつ柔軟に教育課程を編成することができるようになったことが法制度上のターニングポイントになってきたことは言うまでもないことであろう。

大がかりな改革としては、高等教育全体に及ぶモデル・コア・カリキュラムの検討など抜本的なカリキュラム改革に着手する事例もある。ところが一方、新たな実験・実習などの授業内容の創設には、これまでになかったコンセプトや革新的な実施方法が必要とされており、各種のマンパワーが必要な

だけでなく、連携や協同の教育体制が組まれる必要もでてきている。この分科会では、さまざまな大学や教育機関で工夫しておられる実情と課題を明らかにし、大学教育の可能性をさぐっていく。

II この分科会の目的

「高等教育で本当に「実践力」は身につくのか？」とテーマをかかげている。このフォーラムの目的は、大学や教育機関で「実践力」育成しようとしておられる4種類の専門領域での育成方策についてその取り組みをご紹介いただき、当該分野のアプローチの特色と抱える課題と展望を明らかにすることである。高等教育で「実践力」を真に育成するための共通する点や、異なる分野での取り組みを参考にして、ややもすると硬直しがちな大学の取り組みに新たな視点を見いだす一助としていきたいと考えている。

III フォーラムの実施方法

(1) 実施日および実施場所

FD フォーラム第12分科会は、2013年2月24日(日)に実施した。実施場所は、立命館大学衣笠キャンパス・敬学館(2階)263教室であった。一つの分野につき質疑を入れて60分で実施した。タイムスケジュールは、次の表1の通りである。

表1 実施時間ごとの実施分野と報告者

時間	分野	氏名
10:00	医学教育学	山脇正永
11:00	外国語教育	青谷正妥
12:00	昼休み	
13:30	法学	松宮孝明
14:30	教育教育	上原菜穂子
15:30	終了	

(2) 報告者について

第1の報告者は医学教育の分野で、京都府立医科大学・総合医療・医学教育学の山脇正永氏であった。第2の報告者は外国語教育の分野で、京都大学・国際交流推進機構・国際交流センターの青谷正妥氏であった。第3の報告者は法学の分野で、立命館大学法科大学院・法務研究科・研究科長の松宮孝明氏であった。第4の報告者は教師教育の報告者で、京都市教育委員会・京都市総合教育センター・教員養成支援室・指導主事の上原菜穂子氏であった。コーディネーターは、京都教育大学教科教育学の村田利裕が担当した。

(3) 当分科会の参加者数

参加者数は、40人であった。参加者の質疑に応えるために40人を上限としている。第4分科会～第13分科会に共通する実施方法である。

(4) 報告者への依頼事項

報告者には、コーディネーターから、依頼段階で次の3点をお願いしている。

- ① これまでの取り組みを具体的に、他の専門でも理解できるように基本的なところからお話したい。
- ② もとめられる実践像、育てたい専門職性など、お考えを教えてください。
- ③ 「課題となるところ」など、現代の大学生・大学院生等の課題を示していただきたい。

IV 各報告者の概要

1. 医学教育学の「実践力」

第1の報告者、医学教育学の山脇正永氏は、医学教育のゴールが、「良い医師、医学者」を育成することで、どのような能力を持つべきか常に問われながら改革が進んできている点が報告された。6年制の教育課程、2年間の臨床研修、医師国家試験のあり方などが提示された。様々な点で参考になったが、ここではその中でも、3点に注目してみたい。

(1) 医者は、患者さんの病（問題点）を発見して対応する人である。

6年間（卒前教育）を通して考えるきっかけ

を与えることが重要である。医療の現場で医者は、いろいろな場面に遭遇する。山脇氏は、その時に患者さんの問題点を発見して解決するのが医者の専門職性であると指摘する。学生は受験戦争を勝ち抜いてきたのであるがこうした大学教育以前の教育は、「問題が、どこからか与えられるもの」であったり、「問題がどこからか与えられ、正解が必ずある」というのが一般的で、「目的は、正解を得ること」である。

ところが一方、医療の現場は、自分で問題を発見する必要があるのである。もしかすると正解がないかもしれないのである。目標は、最適解を得ることなのである。診察手順をみると、「問診票」「診察」「検査」「結論を得る」「薬を出す」のサイクルがある。医者には、問題点を発見し、いかに解決するかという行為が一生ついて回るのである。つまり、「(患者さんの) 問題点を発見し、解決する」プロセスを踏むということが大切であるということや学生にメッセージとしておくっていると述べておられる。そしてこのことが、医学の実践力の形であると提言された。

コーディネーターは、同じ知識を持っている場合でも、発見に努めようとする医者と、ただ傍観者のようにしている医者では、かなり成果に開きがあるのではないかと推察した。実のところ、他の専門分野でも、複雑な現象に向き合い的確な問題発見の行動をとれるかどうかは、極めて重要なことのように考えられる。例えば、教育学部では、「教育現場の指導者を、子どもの学びの問題点を発見する人」と読み替えてみると、一つの姿が見えてくるように思われる。

医学部は、6年間の教育で「基礎の医学」を学び、ほぼ必修である。卒業したとき国家試験を受ける、通れば医師としての登録が終わる。そしてその後、厚労省から必修化されている2年間の臨床研修があり、基本的な診療科は全てまわることになる。つまり8年間が一つの区切りになる教育である。6年間で卒前教育と呼び、その後の2年間で初期研修医教育と呼んでいる。9日目からは、それぞれの専門に進んで、内科や外科といった希

望する専門のコースに進んでいく。8年間を見ると、前半の4年間は、ほぼ座学や基礎実験などを行うが、後半の4年間（5年生から）実践力を磨く、つまりに診療に参加するという形になっている。「診療が出来る」という能力を実地の「on the job」で学ぶ方式で育てている。国家試験が通ると次の2年間は、実際に患者さんを見ながらトレーニングする。

(2) 医学の実践力とは何か？診てもらいたい医師とはどんなものか？

診てもらいたい医師とはどんなものか？よい医師・よい医療者の基盤として、KASモデルが世界的に広く承認されている。つまり医学では、「知識・態度・技能」とよく言われている（第一は知識 (knowledge)、第二は技術 (skill)、第三は姿勢・態度 (attitude) で、頭文字から「KAS」という)。医者は、知識や技能だけでなく、患者さんに共感できる能力や、心理的・社会的バックグラウンドも把握できる態度も必要と山脇氏は指摘する。この3本柱が重要なのである。

コーディネータは、医学だけでなく日本の大学教育は、おしなべて「K(知識)」と「S(技術)」が重視されてきたのではないかと考える。冒頭の問題における大学観は、「K(知識)」のみと捉えることができるのかもしれない。

さらによい医師の基盤のモデルに沿って、カリキュラムが作られているそうである。その構築方法は、必要能力の目標を定め、授業化していくストラテジーである。文科省は、平成13年にモデル・コア・カリキュラムで卒前教育を改革してきており、KASも含まれている。

モデル・コア・カリキュラムは、文部科学省が出している最低ラインの標準なので、各大学の理念に沿った特色をだすようにしているとのことである。一方、卒後教育の厚労省管轄の2年間の教育と必ずしも一貫した教育となりにくいところがあるが、8年間で基盤的な能力を涵養しようとし、あとの専門医教育に備えようとしている。このモデル・コア・カリキュラムで基本的な資質(=実践力)が定義されていて、コンピテンシー

(competency、職務や役割における効果的ないしは優れた行動に結果的に結びつく「個人特性」)や、アウトカム(実際に社会にどんな影響を与えたかを評価する意味の「成果」)とを考えてもよいかもしれないが、知識的なものだけでなく、コミュニケーション能力、チーム医療が実践できる、患者さん中心の視点が持てるなど、態度的なものも重要だとわられている。もちろん総合的な診断の能力、医学研究等の指向、地域医療なども必要とされ、山脇も変化する医学に対応するためには、自己研鑽が重要で、自学自習のスキルを持ってなければいけないと提言する。知識だけでなく患者さんへの対応なども研鑽する必要がある。

米国には、医師の基本的な能力とは何かということによってアウトカムを設定して、カリキュラムを立てるという、アウトカムベースドカリキュラム(エデュケーション)というものがあり、コア・コンピテンスにも関連するのである。

このような教育の構築方法では、「on the job」の方式の学びが多くなるが、指導する指導医がかなり必要となってくる。指導医のFDが必要である。「教育するために医師になったわけじゃない」との考え等指導側に温度差がある面もあり、それに対応する研修もしている。

(3) 「実践力」が問われる医学教育の背景

国家試験の項目が増えたり、2004年卒後研修が必修化されるなど、この10年間で医学教育が大きく変わってきている。海外でも大きく動いてきており、ACGMEのように、米国の専門医のプログラムを評価するところもある。ここでは、医師の基本的な能力という議論をはじめており、カナダの方では評価表が作られるようになってきている。ヨーロッパの方では、ボローニャ・プロセス(2010年までに個々の国を越えたヨーロッパとしての高等教育圏(EHEA)を形成することを約した声明で、ヨーロッパの大学の国際競争力を高めるためにヨーロッパ全体で同じ基準で学位を授与することなどを盛り込んでいる)の波がきていて、EUで医学教育の統合をしようと

いう動向もある。

米国や韓国は、国家試験に実技を導入している。日本の現状はペーパー試験である。医学教育は、このように「能力の評価」、「アウトカムの評価」に変わってきているのである。つまり、この分科会のテーマである「実践力」が問われてきている。「実践力」が評価されるような方向にきている。それは、大学の認証評価にも関連してきている。国際的な医師のライセンスを出すための国際的な認証基準を作ろうという動きもあり、免許の認証評価（ア Krediteーション）面では、免許の再認定にも関係してきている。基本は、社会的に教育の質が求められてきており、社会のニーズが、アウトカムやコンピテンス、実践力というものに向いてきていると考えられる。医学教育の体系を示したのはエイブラハムフレックスナー（Abraham Flexner）であるが、大学側で原理的な知識を定義する。つまり教師の側からカリキュラムを定義する流れである。ところが、最近はこの逆で最終的な「よい医師」を定義し、そこから項目を作ってくる。パフォーマンスの評価を大切にしてカリキュラムを作るのである。この方法が、世界的な潮流となっている。米国のACGME、イギリスのトゥモロウズドクターなどの例があり、今後は、クラークシップを育てようという動きになってきている。

（4）参加者との質疑

質問1：4年生の共用試験とは何か？国家試験の学生に与えるプレッシャはどうか？臨床的な教育に力がさけないということになっていないか。

回答1：共用試験とは、4年生の修了時に国家試験に準じる試験を行っている。実技もある。4年までがほぼ座学であるが、4年以後の「on the job」に行く仮免許の意味がある。患者さんに接することを認める試験である。国家試験は、かなりのプレッシャーになる。ほぼ1年間かけて勉強する。3日間缶詰の試験である。

質問2：確かに、先生によって教育に関心のある人と無い人がいるが、医療の教育文化を育てるにはどうすればよいか。

回答2：海外を見てきてもらったり、海外から来てもらって話してもらったりしている。

質問3：指導者のモチベーションをあげる方法のひとつとして、「簡単な教育技法の習得」とありましたが、誰を対象に、どのような方法なのかを可能ならば教えていただきたい。

回答3：いくつかの方法がある。ひとつは、マイクロティーティング法で、教育場面を5分間スキットにしてビデオにとり皆で見る方法である。もうひとつの方法は、一分間指導法がある。

2. 語学教育の「実践力」

第2の報告者、青谷正妥氏は、英語教育の理念・方法論・プレゼンテーションの方法の3つの柱でお話いただいた。コーディネータは、4点を抽出して報告としていきたい。

（1）その人の「学び」を構築することが大切新入生として入ってきたときに親しみが持てて、内容のある指導を考えるべきと青谷氏は考える。つまり「大学生の学び」を作る講義を考える必要があるのである。「中年バージョン」「高年バージョン」と生涯発達のし視点を変えると、その学びの本質が理解しやすい。

「好きでも」「嫌いでも」、人は、必要ならば勉強をする。「講義」だけではできるようにならない。学生の努力がなければできるようにならないのである。「講義」の中で学び方を説明するので、それでもって走って自らの学びを作る。学生の学びを作ることが重要である。それには、自分の現状をしっかりと知ることが大切である。自らの出来なさを知ることが大切で、これがステップ0である。

数学と英語の特性を比較すると、数学は、人間が意識的に構築したものであるため、論理的整合性がある。ある程度才能のある人だと数学は取り組みやすい。言語は、非線形で自然発生である。言語は一億倍難しい。受験の数学ができたからといって、英語もできるというわけにいかないのである。

英語が出来るとはどのような状態を指すのであろうか。日本語を話さないことは出来るが、日本語で考えないことは難しい。英語が出来ると言うことは、英語で考えられると言うことである。青谷氏の

講義は、英語の練習するけれど、英語の運用力の本質と学習戦略、言語の進化と脳科学などを入れて、学生が納得づくで学べるように考えている。学生さんが自らの学びを構築すること、がんばれることが大切なのである。

(2) 世界のノンネイティブの英語力は限りなくネイティブに近づいている。－「なまくら学生」と無能教員－

2002年大学教育ランキングでは、先進47国で、日本は最下位であった。理由を聞くと、教員がいい加減で、学生がなまくらであるとのこと。文科省の調査では、日本の学生の平均学習時間は、4.63時間であり、授業を含めてなので自学の時間はほとんどないことになる。欧米では8時間ぐらいである。学生の中には、TOEIC や TOEFL の試験で高得点をとる人がいる。日本人は、よく言われるように勤勉でなく、努力もせず結果も出せていない傾向にある。英語力では、日本人は、1996年アジアで最下位であった。2007年下から2位であった。日本人のスピーキングは、2007年に最下位であった。

ビスマルクは、1898年「20世紀を決める最大の要素は英語だ。北米人が英語を話すからだ。」と述べている。世界のノンネイティブの英語力は限りなくネイティブに近づいている。世界の英語学習の動向に、日本は乗り遅れている。

(3) 英語は、意識的な学習が必要である。

聞き取り能力としては、生後7ヶ月以降の赤ちゃんは、母語の聞き取りは得意で、外国語は苦手である。文法の吸収学習、つまり本で系統的に学ばなくても、聞いてわかるようになる限界は5・6歳であると言われている。英語は、基本的に勉強で、意識的な学習(努力)が必要である。全体のフレームワークを示し、どういう方向に進んでいかなければいけないか教える必要がある。英語は、意識的・意図的活動である。

(4) 10年1万時間が基本で、スピーキングが大切。

宣言的知識(口頭で説明できる知識)と手続き的知識(できるが言葉で説明できない知識)がある。英語の運用能力は、究極の手続き的知識である。

手続き的知識が流ちょうさと自動性の根幹にある。日本人の最大の問題は、手続き的知識が弱く、宣言的知識に頼るところである。言語が使われるべき使われ方をしていないのである。日本語の新聞を読んで、意味をとらないことは難しいが、英語はできる(読んでも意味をとれないの意)。確実に広範な宣言的知識が必要で、語彙だけでも10000語必要である。量をこなす、反復練習等も必要である。タイムプレッシャーも大切である。多く・なんでも・早くである。理解することが止められなくなるようになるには、10年1万時間が基本である。熟練の一般的な目安でもある。米国の赤ちゃんは、5歳児までに2万時間弱の英語を聞いていると言われている。4歳児は、まだネイティブスピーカーではない。1日3時間すると10年で10000時間となる。「言語の内在化」が問題である。英語がしゃべれるから英語で考えられるのであって、英語で考えられるから英語がしゃべれるのではない。文字の無い言語も多く、話し言葉があっても書き言葉がない場合が多い。話し言葉の歴史は、5万年、書き言葉の歴史は、数千年である。「話す」「聞く」が、言語が言語たる部分である。書き言葉は、本当に教えられないと身につかない。一般的に「読み」「書き」が大切に思われるが、「聞く」「話す」が極めて重要である。スピーキングを先行させなければ英語学習は、成立しないのである。母語話者は、小学校にあがるまでに17000時間以上の英語にふれる。日本人は、中高で3000時間の英語にふれるだけなので出来ない。努力を続け続けることが大切なのである。

3 法学の「実践力」育成の課題

第3の報告者、松宮孝明氏は、司法試験と、法曹界での「実践力」を育成する課題を明らかにされた。

法科大学院というところが、どういう専門家を育てるのか?その専門家の養成、つまり「実践力」の養成にどのように応えているのか。応え切れていない現状をご説明することになるかもしれないと前置きされた。

(1) 法科大学院の任務

平成15年、文科省の省令第16号「専門職大学院

の設置基準」がある。専門職学位課程が書かれていて、「第二条専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。」とあり、法科大学院もここにある専門職学位課程の一つである。その目的は、「第六章法科大学院（法科大学院の課程）第十八条第二条第一項の専門職学位課程のうち専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とするものを置く・・・」とある。法曹とは、法律の専門家のことである。数の多いのは弁護士であり、裁判官・検察官とで法曹3者と呼ばれている。その専門家を養成するのが法科大学院の任務である。

さらに設置基準の8条1項に、授業方法を決めているところがある。「(授業の方法等) 第八条専門職大学院においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。」と決められている。さらにその教育課程としてこのような授業を開設しなさいと、平成15年文科省告示の第53号5条(告示の名称:平成15年文部科学省告示第53号(専門職大学院に関し必要な事項について定める件) というのがある。

基本科目7法とは、「憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法」を言っていて、司法試験の必須科目でもある。また、法律実務基礎科目も置かなければならない。それは、「法曹としての技能及び責任その他の法律実務に関する基礎的な分野の科目」と書かれている。三号に、「基礎法学・隣接科目」ということで、法の歴史だとか、法の社会学や・法の哲学・法の心理に関するものが入る。さらに、「展開・先端科目」として、最先端の分野を扱う法領域を扱う科目を学習できるようにしなければならないとしている。

さらに5条2項に「法科大学院は、前項各号のすべてにわたって授業科目を開設するとともに、学生の授業科目の履修が同項各号のいずれかに過度に偏ることのないよう配慮するものとする。」とある。この過度には、司法試験の出題科目だけにという

ことである。

法曹になるためには、法科大学院での教育を受け標準年限は3年である。法学部で学んできた人は、2年で修了もできる。3月に修了して、5月に年1回の司法試験がある。この司法試験に合格しなければ法曹界で仕事が出来ないのである。司法試験の科目が、基本科目7法とその他に「展開・先端科目」の中の労働法・知的財産法・環境法など8法あり、その中の1つを選んで受験しなければならないことになっている。司法試験に必要な科目とそうでない科目があるので、科目設定が、司法試験に出題される学習に偏らないようにしなければいけないとされているのである。

(2) 育成する人材の目標を初めて掲げる立命館法科大学院では、法曹像を「21世紀地球市民法曹」の養成という目標を掲げている。従来の法学系には、このようなものが無かったが、どういう人を育成するという目標を抽象的にも定めて、それに向かってカリキュラムを編成していくという風になっている。目標は、法科大学院が、初めてかかげたのである。立命では、「グローバルな時代に対応できるしかし、きちんと足下も見据えた市民的感觉を備えた法曹を育成します」としている。

基本的な力の確実な習得と専門法曹を育てるプログラムとして、1年次は講義科目で徹底して基礎を学び、2年次は各法の運用能力を高めることをめざす演習を実施し、20人くらいのクラスサイズで学ばせている。3年次には、研究者教員と実務家教員が共同指導する公法・民法・刑事法の実務総合演習を通じて、実体法と手続法を統合した事例問題に取り組み、「新司法試験」でも検討されている法領域横断的・複合的問題への対応能力を高めようとしている。

医学部と違って、研究もして実務も担当するということが従来あまり無かったので、伝統的な法学部出身の教員と、弁護士・裁判所・検察庁などから派遣された実務家教員の両方で教育に当たっている。両者が協同で担当する「公法実務総合演習」「民法実務総合演習」「刑事法実務総合演習」という演習科目もある。さらに「展開・先端科目」も3

年次に設置している。実習系の科目もあり一般のインターンシップに相当する、弁護士さんの事務所等に行って学ぶ「エクスターンシップ」がある。また、弁護士が背後について指導するのではあるが、市民からの法律相談に応えるという「リーガルクリニック」という科目も行っている。

双方向・多方向授業を多く取り入れ、事例研究に取り組むようにしている。立命館では、一般的な民事の相談だけでなく、「女性と人権」という内容に特化したクリニックにも取り組んでいる。これは女性の方だけの相談で、離婚やDVなどの内容が多いようである。事前に研修を受けた学生が相談にのるようにし、わからなければ後ろにいる弁護士が応えたりしてそれを見ながら学生が学ぶという授業である。

「エクスターンシップ」と「リーガルクリニック」は選択必修で、どちらか一つをとらなければならないとしているが、実務に就いたOBが、実際に役に立っているとしているのが、この2つであると言ってくれている。この教育は、主に実務家教員が活躍しており、従来の法学部と比べると画期的に実践的な教育をしていると考えている。

(3) 難関の司法試験の強い影響

一方、司法試験に合格しないと法曹にはなれないという現実がある。受験資格は、5年の内3回である。1回に受かる確率が、25パーセント程度となっている。すべてのチャンスを使っても、全国平均は4割～5割である。半分以上の学生が、司法試験に合格しないというのが現状である。司法試験のプレッシャーが法科大学院の教育に非常に大きな影響を与えている。

現在の司法試験では、正解を選ぶ方式や論文式の試験であるが、口述式の面接を取り入れていない。7科目の受験科目で、論文式試験としては8科目から選んで1科目を答える。

そこでは、双方向科目・臨床系科目の試験はなされていない。科目が多すぎる点と、実践的な能力を試す試験が無いという点が問題である。試験の実施方法は、1日の休みを挟んで、4日間缶詰である。

司法試験の受験資格は現在、法科大学院修了したものと司法試験予備試験の2つのルートが存在している。経済的な困難者に道をつけるとして、予備試験に合格すると司法試験の受験資格が与えられるようになっている。予備試験の受験資格は制限がないので、学部在学中の大学生でも受験できる。予備試験の科目は、本番の司法試験の科目と変わらない。大学の卒業を前提としていないので、教養科目も課されている。また、法科大学院修了と同等の内容を課するために法科大学院が行っている実務基礎科目に匹敵する科目が必要となる。民事訴訟・刑事訴訟・法曹倫理が課されている。さらに口述試験もある。つまり司法試験と同じような試験を2度受けているところがある。司法試験は、8000人程度が受験し、2102人(昨年)合格した。合格率は、25.06パーセントである。予備試験からの合格率は、予備試験合格からの割合だけを見れば7割近いが、予備試験受験段階からの合格率を見れば0.89パーセントにすぎない。にもかかわらず、前者の数字だけを見て、法科大学院教育を批判する向きが、一部には存在する。

司法試験のプレッシャーが、法科大学院教育に何をもたらしているのかということであるが、司法試験のプレッシャーはかなり大きいと言えよう。学生に芽生えている傾向は、第1にどう考えればいいのかと問われる問題に対して、どう書いたら良いか解答例を教えて欲しいという学生が増えていると感じられる。法曹の問題をどうとらえたらよいのかという、理解が先であるべきであるが、ともかくどう書くかを急いでしまいがちである。考えるより解答例を覚えることを優先させる傾向になってきている。法科大学院の学生は、実務家教員の言葉の方がありがたいと思っている。

第2に、選択科目の軽視が発生している。司法試験の科目だけを勉強する傾向や「リーガルクリニック」など、専門職についた学生には好評の科目が、途上の学生にはその意味がわからず人気がない傾向にあることである。2週間の実地教育も負担だと思える学生が多い実情である。臨床系科目は、「職業イメージ」がようやく具体化したなど、モチベーション

の向上に役立っている場合があるが、受け入れ先の先生から苦情をもらう場合や、コーディネータの先生が板挟みになってしまう場合が発生している。この種の授業が科目廃止まで至った大学もある。現在、臨床系科目からの撤退・縮小の傾向が見られるのである。

さらに立命館大学では、「エクステンションセンター」で、5、6人単位の司法試験対策の弁護士ゼミも行っている。また、自主ゼミにも対応している。一方、これらのところへ来ない学生さんへの対応が出来ていない悩みもある。

「実践力」養成に弊害が出ているので次の2点の対応が考えられる。一つ目は、司法試験という資格試験を廃止して、法科大学院の修了と一定の実務を経れば誰でも法曹資格を獲得できるようにする。一つの極端な考え方で、あまり承認されないかもしれないがこれも考え方である。二つ目は、司法試験そのものを改革すべきとする考え方である。松宮氏は、英語力を生かす選択科目を増やしていくことも良いのではないかと考えていると提言する。また、臨床の科目を設定して、それで得点できるようにすることも考えられるのではないかと考えているとしている。

(4) 参加者との質疑

質問1：細かいところをいろいろお伺いしたいが、大きなところでひとつお尋ねしたい。従来の大学院と法科大学院の良いところと悪いところはどこか？

回答1：法科大学院が法学部教育にもたらした悪い側面としては、ですが、従来の法学部から指導者を移動させたので、学部のカリキュラムを減らしたところがあるという点がある。良い側面としては、ですが、これまでの法学教育は、専攻する教員の専門分野のみを細かく講義していた傾向もあったが、教育と研究を相対的に分離して、その科目全体を講義するようになってきたところである。

4 教師教育の「実践力」育成の課題

第4の報告者は、上原菜穂子氏で、京都市教育委員会の開催している「京都教師塾」の活動を紹介ねがった。

(1) 「京都教師塾」とは？

上原氏は、教員養成支援室に所属しておられる。教員養成支援室は、平成18年4月に養成を専門にする部署が登場する。その9月に「京都教師塾」の第1期を開講させている。採用試験は、この春も380人採用しているおりの必要性からもきている。市長の要望で設立、ボランティアサポート事業や教育実習などの仕事もしている。

教育現場は、ベテランの指導者も初任者も、保護者のニーズにしっかりと対応していけることが求められる。命と心をあずかる仕事であるので、現場に立ったときある程度力がないと困る。基本的な力がないと教育現場で何日も持たないことが考えられる。「京都教師塾」は、下支えをすることが役割であり目的でもある。また、教員に向いていないと思えたらそのことを掴む場でもあり、見極めの材料を提供する場でもあるのである。

パンフレットにもあるように、「京都教師塾とは、「教師になろう」という高い志と情熱・行動力に溢れる塾生が、大学で身につけた専門知識を基盤として、京都市の教員の熱意あふれる取り組みや理念、市民ぐるみの教育実践に直接触れ、教員として求められる資質や実践的指導力に磨きをかける場です。」としていて、「大学との連携」という意識を大切にしている。また、資質・実践的指導力という部分も重視している。現在、第7期が10月から始まって6月までなのであるが、多種の大学から参加してもらっており、北海道の出身の方から鹿児島などまで幅広い出身が受講してくれている。300人募集のところ350人を少し超える応募者の実態で、最終330人が入塾している。受講料は、1万円プラス保険料である。

京都市の教育理念として、子どもたちひとり一人を徹底的に大切にしようとしており、現場でディスカッションすることも多い。ひとり一人を徹底的に大切にすることは実際どういうことなのかを様々な教師塾の柱の授業で問うている。他府県も教師養成塾に取り組んでいるところが多くなってきているが、保護者との対応の仕方、子どもがこういうあられがあつた時どうするのかといったことを「ロール

プレイ」のようなやり方でしている塾もあるが、教育に対する塾生なりの理念・哲学を持って行けるようなことを目指した塾であると考えている。

(2) 4つの柱と塾生同士のディスカッションの場の確保

4つの柱がある。「京都市教育学講座(全10回の講座)」「授業実践講座」「京都市立学校実地研修(10日間)」「フィールドワーク」の4つである。

「京都市教育学講座」の講師は、校長や中堅や若手教員など学校の教員、保護者、指導主事になっている。特徴としては、全体での講義やパネルディスカッションをするだけでなく、塾生同士の分散会でのディスカッションを大切にしている。10の分散会に分かれて実施している。その分散会でさらに4~5人の少人数グループを組んで、意味を深くとらえる話をするようにしている。普段は、採用1年目の指導をしている拠点校指導員が合計10人来てくれて対応している。グループアドバイザーと呼んでいる。この授業は、主に土曜日に実施していて、拠点校指導員は、普段は採用1年目の教諭の指導をし、月に2度程度この講座を担当している。

全体の場合でも、挙手が上がる。グループ討議では、キーワードを書き上げるなどして付箋などを使って深めていく。塾生は、捉えを深めるのである。ピンクは学んだこと、黄色は教師になってやってみたいこと、ブルーは不安に思うことにわけて分析している。最終段階でグループアドバイザーが言うべきことを判断してまとめを述べている。最後にA41枚のレポートを書くのであるが、退職校長が2週間でコメントを書いている。

「授業実践講座」は、4月・5月にある。指導案を作成し、7分間の模擬授業をしている。教科領域の指導主事が指導している。校種・職種に十分対応できるようにしようとしていて、子ども役の受講生へも指導をする。指導案が締め切りに出せない場合、教壇には立てないとしている。

「京都市立学校実地研修」は、実際の学校に10日間入り込んで研修をするということである。教育実習は授業が中心になるが、教師の仕事はその他にも沢山あるので、教師の1日を体験するという

ことでやっている。300人の塾生に対して、3倍くらいの人数分の学校がある。出してくれた学校は、少なくとも1人は派遣しようとしている。

「フィールドワーク」では、研究発表の参加や教育施設の見学などのフィールドワークを4会場以上は行こうというようになっている。

塾生は3回生が一番多く、大学生が93パーセント、社会人が7パーセントいる。3回生は、大学生の65パーセントくらいで、10月に入塾して、4回生の6月に卒塾し採用試験に挑戦する流れの方が多い。

提携大学が、100大学となり連携して指導していきたいと考えている。実地研修の後で続けて学校ボランティアをしてくれる例もある。塾生は、京都市の採用試験を受ける人だけではなく、郷里で受験する人もいる。採用試験の結果としては、京都市全体では一般的には18.2パーセントの合格率であるが、塾生の合格率は、31.5パーセントであった。現役の大学生・大学院生に絞ると、36パーセントで、一般の合格率をみると15.9パーセントであった。現役の大学の間にもどのようなことを考えるのかが大切なのではないだろうかと思っている。成果を求めだけでなく、自分自身の成長こそが大切だと考える。

(3) 問いかける教師を育てたい。

「教育実践力」であるが、基本的な考え方として、教師は学校現場で育つと考えている。現場で育つために養成塾で何が出来るのかと常に問うている。塾生が、「なぜだろう」という問いかけの繰り返しから、「こういうことが大切ではないか」「こういうことをしなければならない」など、ひとり一人の理念や哲学を持って行けるようになって欲しいと考えている。そういうものが、「実践力」の大切なところである。

(4) 参加者との質疑

質問1：大学の正課の授業で、このようなこともやられているのではないかなと思うが、お互いの位置づけなどを教えていただきたい。

回答1：どちらがやるということもあるかもしれないけれども、どちらもやるという部分もあっても良いのではないかな。例えば大学の授業でインターンシップ

に入っている場合、実施研修免除の対応もしている。プラスアルファ一層行っているというところがあると思う。

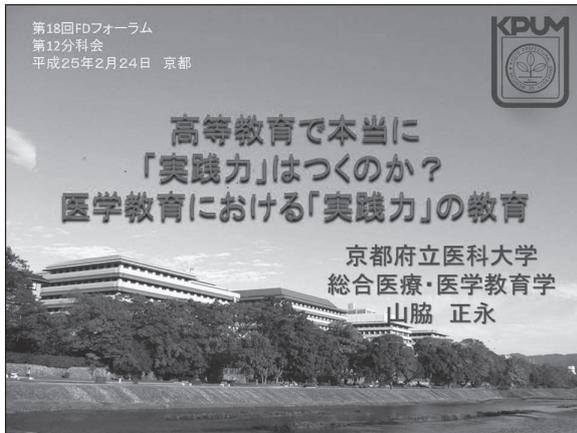
V 感謝の言葉

4分野を架橋する本フォーラムですが、社会の期待に応える人材育成という大きな課題が、切実な使命として存在していると感じます。ご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。また、ご登壇いただいた4分野のエキスパートの報告者の方々には、ご多忙のところ高等教育の「実践力」育成に貴重な示唆と提案を戴きました。フォーラムの概要をお伝えするのが本稿の目的ですが、なにせ力不足のコーディネータがまとめたものであり、理解不足や不十分な表現になっているところが多々あるかと存じます。この場をかりてお詫び申し上げます。せめて真摯で熱気に満ちた会場の雰囲気を感じていただければと存じます。最後になりましたが、計画や会場準備等ご準備いただいた京都コンソーシアムのスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

高等教育で本当に「実践力」はつくのか？医学教育における「実践力」の教育

京都府立医科大学 総合医療・医学教育学 教授

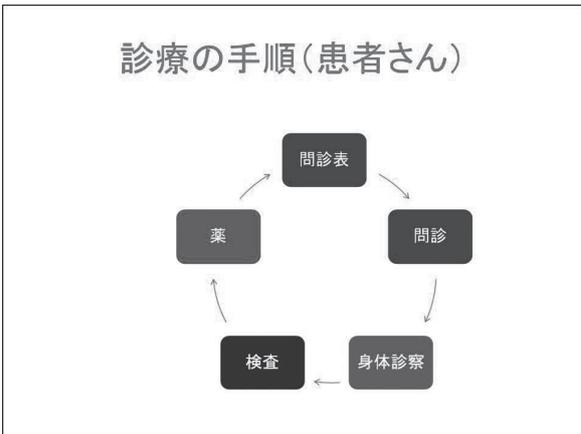
山脇 正永



高等教育で行うこと
医師・医学者にとっての「実践力」の例

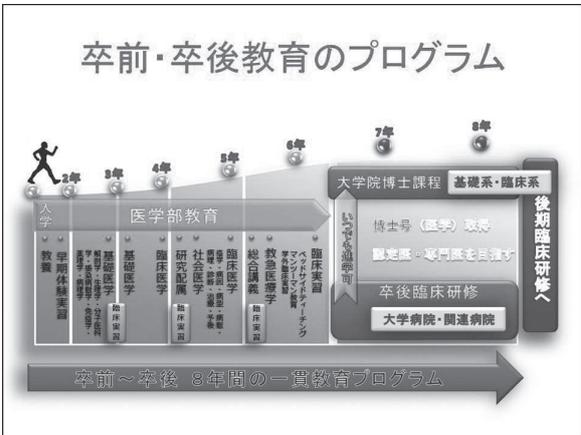
Problem solving
～問題を解くこと

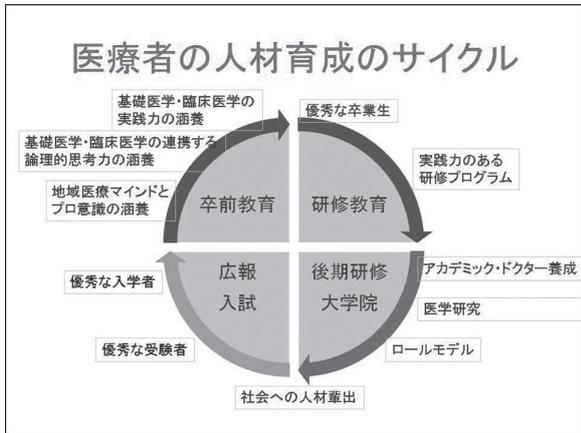
- 今までの問題
 - 与えられた問題である
 - 正解が必ずある
 - 目的は正解をえること
- これからの問題
 - 自分で問題を発見する
 - 正解はないかもしれない
 - 目的は「最適解」を得ること



医師にとって問題を解くこととは

- 患者さんの問題点を発見し
 - 現病(現在の病気)の問題点
 - 合併症の問題点
 - メンタル面の問題点
 - 生活背景の問題点
- 対応する
 - 治療
 - リハビリテーション
 - 社会的対応





- ### 本日の内容
- 「実践力」とは？
 - 現在のゴール設定は？
 - 「実践力」を問われる背景
 - 現在の医学教育の潮流
 - 如何に「実践力」を涵養するか
 - 「実践力」をつける教育手法
 - Future Scope

- ### 本日の内容
- 「実践力」とは？
 - 現在のゴール設定は？
 - 「実践力」を問われる背景
 - 現在の医学教育の潮流
 - 如何に「実践力」を涵養するか
 - 「実践力」をつける教育手法
 - Future Scope



医学教育モデル・コア・カリキュラム

【解説】

【目的】

1) 医師の視察、転診、打診ができる。
2) 呼吸音の聴診ができる。
3) 心音と心雑音の聴診ができる。
4) 骨格の触診を基礎としてできる。
5) 乳房の診察を実施できる（シミュレーターでも可とする）。

【教育目標】

患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身につける。

【到達目標】

1) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
2) 患者に分かりやすい言葉で説明できる。
3) 患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
4) 医療行為が患者と医師の精神的な信頼関係に基づいていることを説明できる。
5) 患者の望望（診察・転院・紹介）への対応の仕方を説明できる。
6) 患者のプライバシーに配慮できる。
7) 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

④ 診断能力

【到達目標】

1) 急性肺炎（アルコール性、胆石性、肺血栓）の病態生理、症状、診断と治療を説明できる。
2) 慢性肺炎（アルコール性、肺結核）の病態生理、症状、診断、合併症と治療を説明できる。
3) 詳細の病歴、症状と診断を説明できる。
* 4) 重症急性性肺炎の病態生理、診断基準と治療を説明できる。
* 5) 肺動脈血栓症の病態生理を説明できる。

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する*

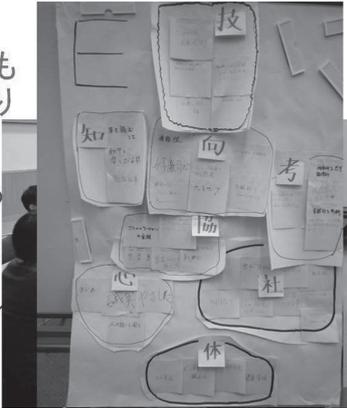
モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

医師として求められる基本的な資質

- 医師としての職責
- 患者中心の視点
- コミュニケーション能力
- チーム医療
- 総合的診断能力
- 地域医療
- 医学研究への志向
- 自己研鑽

指導医講習会 「研修医に望むもの」セッションより H25.1.12.

- 大学及び協力病院の指導医33名が参加
- 指導医自身の振り返りの機会
- 指導のモチベーションを向上



本日の内容

- 「実践力」とは？
– 現在のゴール設定は？
- 「実践力」を問われる背景
– 現在の医学教育の潮流
- 如何に「実践力」を涵養するか
– 「実践力」をつける教育手法
- Future Scope

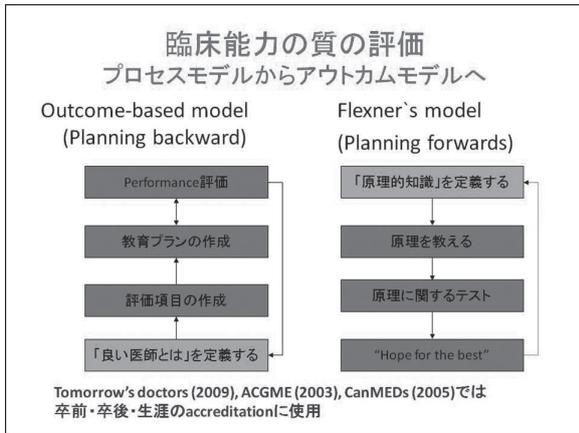
最近の医学教育の動向

	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012
卒前		・コアカリキュラム ・共用試験トライアル				・入学定員増 ・コアカリキュラム改訂	
国試 卒後		・国試項目増		・臨床研修必修化		・共用試験 ・医学教育改善報告書	・国試問題追加 ・研修制度見直し
海外	・ACGME評価(米国) ・Bolonia process (EU)		・レジデント就業規則(米国) ・CanMEDs評価(カナダ)				・ECFMG認定評価 ・国家試験OSCE(韓国)

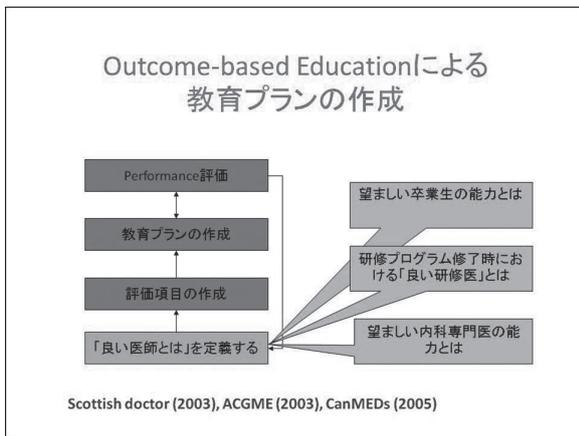
激動する医学教育

- 医学教育改革
- 能力 (competency) 評価、アウトカム評価
- 認証評価、accreditation

⇒ 社会的に教育の質が求められている



Competency(Outcome)を目標とした 教育プログラム



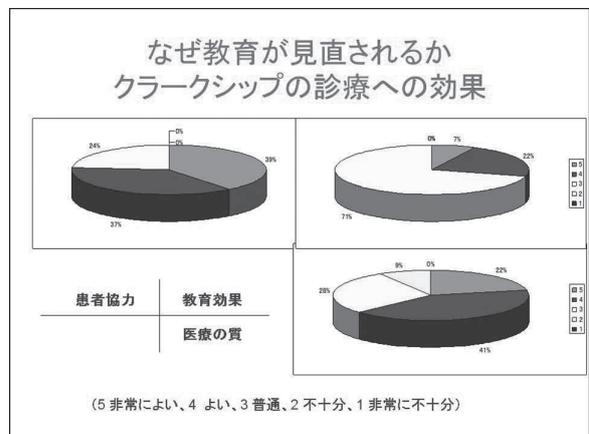
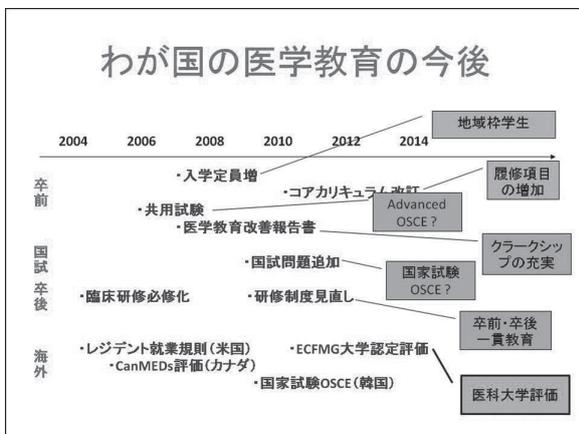
クラークシップ(臨床実習)評価表

臨床実習評価表
評価者名 _____

氏名 _____
臨床実習科目 _____
実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日

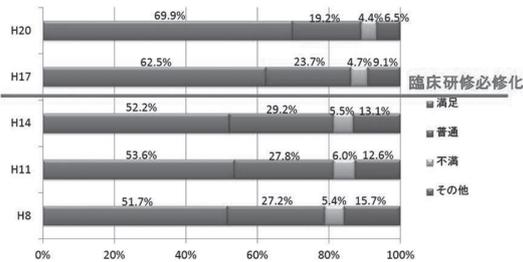
Competency評価を
H23年度臨床実習
より開始

	非常に不足	不足	普通	よい	非常によい	評価なし
1 科学生として						
・基礎医学を臨床に活用できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・心理学、社会学、疫学を臨床に活用できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・医学研究論文を正確に理解できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 臨床家として						
・患者の医学的歴史を正確に聞き取り(8&O)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・アセスメントと判断ができる(8&O)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・医学的歴史の正確な理解ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・家族、手帳等とよく話し合える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・医療機器を適切に使用できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 プロフェッショナルとして						
・倫理的、法律的行動ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・自己学習、自己管理ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・チームで行動ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 総合評価	10点中 _____ 点 × 出席比率(0~1) _____ 点					



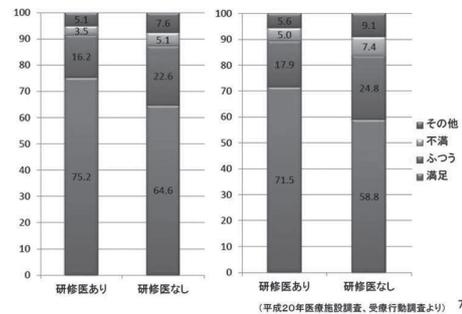
なぜ教育が見直されるか

入院患者の診療や治療内容に対する満足度



なぜ教育が見直されるか

入院患者の診療・治療内容についての満足度



「実践力」を養う教育

「教育のない病院に未来はない」
(国保旭中央病院
諸橋芳夫元院長)

本日の内容

- 「実践力」とは？
– 現在のゴール設定は？
- 「実践力」を問われる背景
– 現在の医学教育の潮流
- 如何に「実践力」を涵養するか
– 「実践力」をつける教育手法
- Future Scope

どのように教育を行うか 医学教育における背景理論

- 成人学習理論(成人教育学)
- 認知心理学
– 高度な技能の教育
- OJT(on-the-job training)



成人教育学 (Knowles 2002)

- Andragogy(成人教育学)
– The art and science of helping adult learn
– 成人の学習を援助する技術と科学

cf. Pedagogy(子供を対象とした教育学)

成人学習者の特徴(P-MARGE)

- P practical(実利的)
- M motivation(動機)
- A autonomous(自律的)
- R relevancy(関連性)
- G goal-oriented(目的志向性)
- E experience(経験)

成人教育者の役割

- 診断的機能
 - ある状況の中で、学習者がある学習に対する自分のニーズを診断するのを支援する
- 計画的機能
 - 学習者と共に、望ましい学習を生み出せるような一連の学習計画を立てる
- 動機付け機能
 - 学習者が学習をしたくなるような条件を創り出すこと
- 方法論的機能
 - 望ましい学習を生み出す最も効果的な方法や技法を選択すること
- 情報提供的機能
 - 望ましい学習を生み出すための人的・物的資源を提供すること
- 評価的機能
 - 学習者が学習経験の成果を評価するのを援助すること

グループ学習 基礎医学PBL (Problem-based learning)チュートリアル導入 教育効果 vs. 教員の負担

- 医学教育においてPBLは効果的
- しかし、PBLには多大な負担が必要(12~15の教員)



- ① Teaching assistantのポストPBLの試み
- ② Student-led PBL → 学生がリードするPBL

33

教員の負担を軽減したグループ学習 チーム基盤型学習 Team-based Learning (TBL)

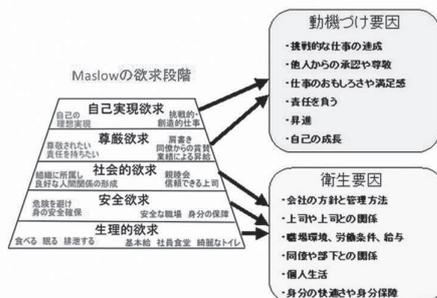
- 大教室でできる
- 教員は1~3名
- 学生が主導
- 学習リソース



- 府立医大学生はPBLを経ないでも可能

2011.4.20. KPUM 34

Motivation(動機づけ)

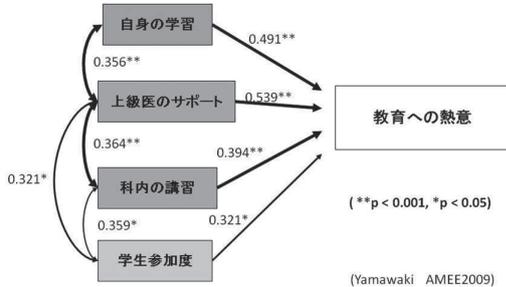


やる気を出すシステムづくり ARCSモデル(Keller)

- Attention 注意喚起
- Relevance 関連性
- Confidence 自信・確信
- Satisfaction 満足感



臨床・クラークシップ指導医のモチベーションは何に左右されるか？



指導のモチベーションを上げる

- 教育のシステム化
 - 学習者に応じた教育
 - ARCSモデルによる教育設計
- 無理のない指導方法
 - OJTで教える
 - Opportunity (教育機会) を逃さない
 - 簡単な教育技法の習得
- 上司のサポート、教育サポートシステム

簡単な教育機会はいくらでもあります



教育機会：

些細なOpportunityを逃さない

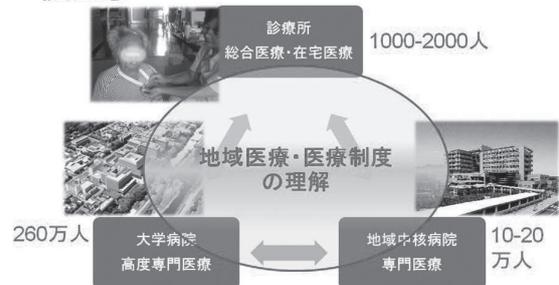
- 講義で質問の際に
 - 実習中のディスカッションの中で
 - グループ回診中に廊下で
 - 手術中に質問・説明
- さらに・・・
- 今週の宿題を出す
 - チームの中での役割を与える
 - 一緒にやってみる・見てみる

本日の内容

- 「実践力」とは？
 - 現在のゴール設定は？
- 「実践力」を問われる背景
 - 現在の医学教育の潮流
- 如何に「実践力」を涵養するか
 - 「実践力」をつける教育手法
- Future Scope

これからの医療と医学教育

高齢化 } 広い視野を持ち専門領域を理解した医師・看護師が求められる
 複雑化 }



Community-based Medical Education 久美浜病院 命の授業

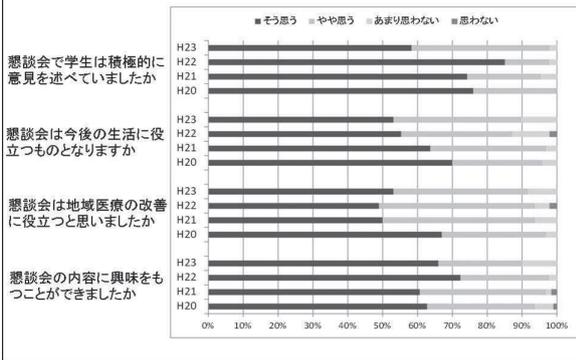


地域医療実習

- 第5学年(クラークシップ中)の学生
- 看護学科学生とともに1週間地域中核病院を中心にCommunity-based medicineを体験
- 府立与謝の海病院、公立南丹病院、市立福知山市民病院、綾部市立病院、久美浜病院、弥栄病院

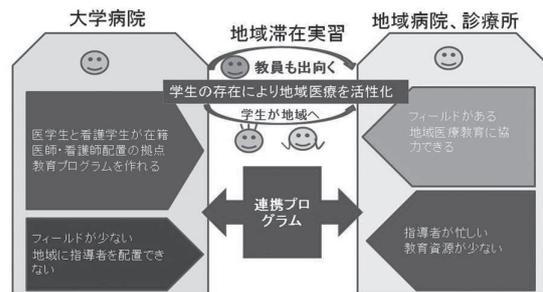


住民懇談会参加者の 評価と意見

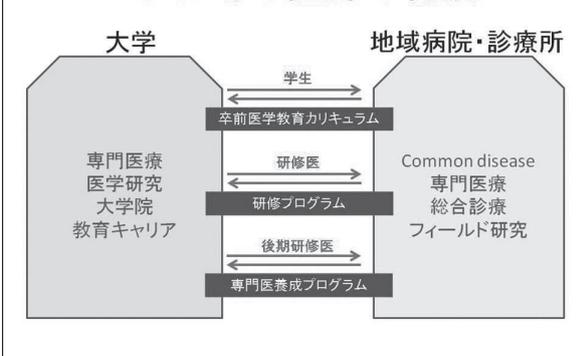


地域指向型教育プログラム

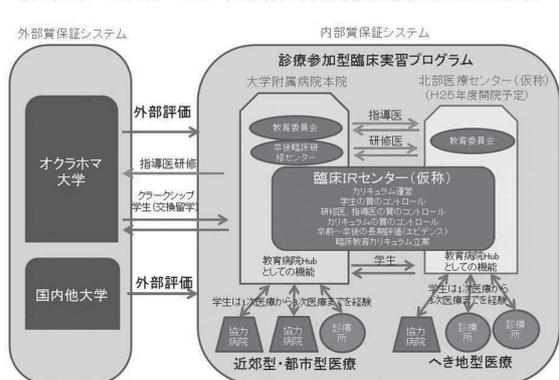
Community-Oriented Medical Education

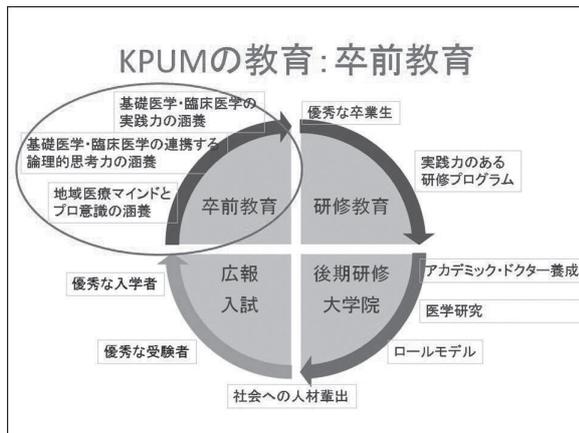


これからの医師の育成



教育GP H24~29 診療参加型臨床実習の質の保証





- ### 高等教育で「実践力」をつけることは可能(必須)
- 社会へのアカウンタビリティが必要
 - 教育のゴール(アウトカム)設定
 - 教育の評価
 - 大学のガバナンスが必要
 - 教育手法の集約化、効率化
 - 教育文化の涵養
 - 教育フィールド

まとめにかえて

"It goes without saying that no man can teach successfully who is not at the same time a student."

Sir William Osler

「京都教師塾」で育てたい 教師の実践的力量

京都市教育委員会 京都市総合教育センター 教員養成支援室 指導主事

上原 菜穂子

第18回FDフォーラム 第12分科会

「高等教育で本当に『実践力』は身につくのか？」

「京都教師塾」で育てたい
教師の実践的力量



京都市総合教育センター 教員養成支援室
上原 菜穂子

「京都教師塾」とは

「教師になろう」という高い志と情熱・行動力にあふれる塾生が、大学で身に付けた専門的知識を基盤として、京都市の教員の熱意あふれる取組や理念、市民ぐるみの教育実践に直接触れ、教員として求められている資質や実践的指導力に磨きをかける場です。

第7期は約50の大学から学生の応募があり、社会人も含めて330人が塾生として学んでいます。



募集人数 300人
受講料は1万円+保険料

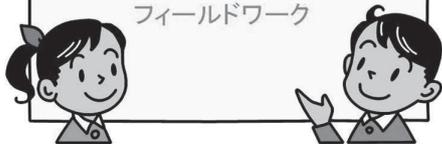
「京都教師塾」のめざすもの

～「子どもたち一人一人を徹底的に大切に」という京都市教育の伝統を踏まえた具体的な教育実践を基に～

- ✓ 教育に対する「厳しさ」とともに「喜び」を体感する
- ✓ 教育の果たすべき社会的責務を自覚する
- ✓ 京都市教育の伝統を踏まえ、市民ぐるみで進める教育改革の理解を深める
- ✓ 子どもたち一人一人を徹底的に大切にしたい授業の在り方を探究する
- ✓ 実践に裏付けられた教育に対する深い哲学を持つ

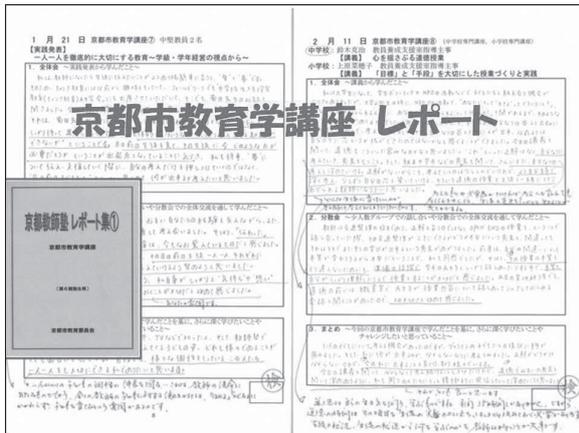
「京都教師塾」の柱となる4つの講座

京都市教育学講座
授業実践講座
京都市立学校実地研修
フィールドワーク



京都市教育学講座(10日間)

- 校長、中堅・若手教員、保護者、教育委員会の指導主事等が講師を務めます。
- 全体会での講義やパネルディスカッション、実践発表をもとに、分散会では少人数グループでの討議を行います。
- 拠点校指導教員が「グループアドバイザー」として分散会を進行し、塾生の教育に対する理念を深めます。



授業実践講座(2日間)

- 授業力向上に向け、学習指導案の作成や模擬授業などを行います。
- 総合教育センター指導主事が担当します。
 - ✓ 京都市総合教育センター教科・領域担当主事による講義
 - ✓ 学習指導案の作成
 - ✓ 模擬授業

京都市立学校 実地研修(10日間)

- 京都市立小・中・高等学校・総合支援学校の中から塾生の希望校種・職種に基づき研修校を決定します。
- 教科指導が中心となる教育実習と異なり、様々な教育活動を行っている『教師の一日』を10日間で体験します。

フィールドワーク(4会場以上)

- 各学校・研究会主催研究発表会
- 京都市総合教育センター研究発表会
- 花背山の家
- 青少年科学センター
- 学校歴史博物館
- 生き方探究館
- 教育委員会主催研修会
- 「先輩の授業に学ぼう」

「京都教師塾」1年間の流れ(第7期)

平成24年度 平成25年度 平成24年10月～平成25年6月

	京都市教育学講座	授業実践講座	学校実地研修	フィールドワーク
10月	入塾式 10/13	10/13, 27		(4会場以上)
11月	11/10		(10日間)	↓
12月	12/1, 15		↓	↓
1月	1/19		↓	↓
2月	2/2, 16		↓	↓
3月	3/2, 9 (10日間)		↓	↓
4月		4/13		
5月		5/11または25		
6月	卒業式 6/8	(2日間)		

「京都教師塾」に関するよくある質問

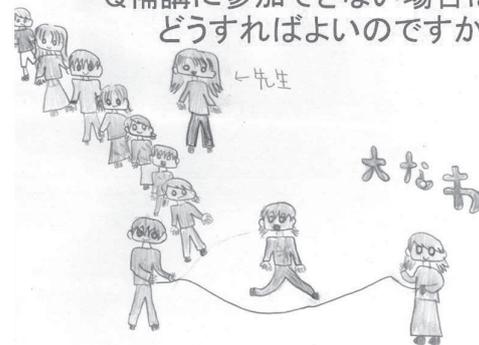
Q京都市教育学講座、授業実践講座は土曜日に実施されますが、大学の授業等で参加できない場合があります。



A大学の講義を優先してください。平日夜間に補講を実施します。補講に参加することで出席とみなします。



Q補講に参加できない場合はどうすればよいのですか。



A京都市教育学講座等の全体会の講義は録画し、カリキュラム開発支援センターに配架します。補講への参加が無理な場合は、欠席届を提出し、DVD視聴後レポートを提出します。



Q学校現場の先生方からアドバイスはもらえますか。

A京都市教育学講座の分散会では、「グループアドバイザー」(拠点校指導教員)が各組を担当し、様々な角度から助言します。

Q学校に行って授業をたくさん見たいのですが。

Aフィールドワークとして、多くの小中学校の研究発表会を紹介します。

Q学校実地研修は10日間連続で参加しなければならないのですか。大学の講義の関係で参加できない曜日や月もあるのですが。

A塾生に希望月等を調査し、学校を決定します。参加する曜日等、詳細については、事前訪問を行い、学校と塾生で計画を立てます。必ずしも連続である必要はありません。

「京都教師塾」10の特徴

- ①京都市立学校での具体的な実践に触れることで、教師に求められる資質や実践的指導力を培います。
- ②「教師になる」という同じ志をもつ多くの学生や社会人、既に各学校で活躍する講師の皆さん同士の交流が深まります。
- ③分散会では、各組1名の現職教員のグループアドバイザーを配置します。
- ④各教科等を担当する第一線の指導主事から学習指導案の書き方や模擬授業など実践的指導が受けられます。
- ⑤京都市教育学講座のレポートは、毎回コメントを付け、返却します。
- ⑥平日夜間の補講や塾生の日程希望を踏まえた学校実地研修の設定等により、大学での授業・活動と両立できます。
- ⑦総合教育センター内にある、豊富な教育資料や優れた学習指導案(約13,000点)を集積した「カリキュラム開発支援センター」が利用できます。
- ⑧特色ある学校の研究発表会に参加できます。
- ⑨平成25年度京都市新規採用教員の約34%が、「京都教師塾」出身者となっています。
- ⑩第1～6期を通じて2,800人を超える塾生が学び、現在も多くの卒業生が京都市及び他府県を含めた学校現場で子どもたちのために活躍しています。

参考

「京都教師塾」教育実践特別公開講座

- ◇第1回 平成24年10月27日(土)
『学校をつくる～堀川高等学校がめざしてきたもの～』
(荒瀬克己 教育企画監)
- ◇第2回 平成24年11月10日(土)
『子どもたちが心豊かな人生を送るために～少年非行の現状から～』
(堤勇一郎 京都府警本部少年課警部)
- ◇第3回 平成24年12月 1日(土)
『一人一人を大切に教育～総合育成支援教育の視点から～』
(田邊滋人 総合育成支援課首席指導主事)
- ◇第4回 平成25年 2月 2日(土)
『総合支援学校の教育』 (田邊滋人 総合育成支援課首席指導主事)



塾生だけでなく、
教師をめざす塾生以外の方や京都市採用内定者へ、
4回に渡って広く公開しました。



参考

学生ボランティア学校サポート事業

- 100大学と連携 (平成24年12月現在)
- のべ1,750名の学生が参加
(平成24年4月～12月)
- 配置校種内訳
小 135校 1244人, 中 50校 342人, 支 7校 46人,
幼 10園 54人, 高 6校61人 (平成24年12月現在)

学校実地研修を終えた塾生も、
可能な限りボランティアとして
引き続き活動しています。



参考

「京都教師塾 第6期生」の 京都市教員採用試験の状況

- 受験者のうち、最終合格者=31.5%
※市全体の合格率は18.2%
- 現役大学生・院生の合格率=36.0%
※市全体の現役大学生・院生合格率は15.9%

一般受験者に対して、
高い合格率となっています

参考

「京都教師塾」京都市教育学講座の
一コマを紹介します。

「教師の成長」を考える
～子どもの信頼に応えるために～

矢印から考える



目的は何だったのか?

矢印から考える



「たとえ30年間教師をしても、
自らの授業を振り返らなければ、
採用1年目を30回しているようなものだ。」

「成長」とは？

- ・成果ではなく
- ・挑戦し続ける
- ・登り続けようとする
- ・振り返って反省する
- ・考える
- ・立ち続ける
- ・逃げない

「人権」を考える～Aさん

「なぜ、Aさんだけ・・・？」

みんなに等しい教育？
一人一人に応じた教育？

「人権」を考える～Aさん

- ・Aさんに寄り添うことをやめたら・・・。
- ・一人を大切にできなくて・・・。
- ・公平って？不公平って？
- ・「みんな遊び」
- ・理解を求めて

「そうしたい理由があるはずだ」

「人権」を考える～Aさん

「教師の役割」とは？

子どもの幸せのために、

精一杯力を尽くすこと。

みんなに同じだけ幸せになってほしい。

そのための手立ては、一人一人違う、

「京都教師塾」で育てたい

教師の実践的力とは？

◆教師は、教育現場で育つ。

◆現場で育つために、

養成段階で培える実践的力とは？

- ・知識
- ・技能
- ・理念、哲学

⇒ 講義や実地研修等から得た情報について、そのことの意味を自分で考え捉えること。この繰り返しから、塾生一人一人の「教師としての理念、哲学」が生まれる。

⇒ 「京都教師塾」で育てたい実践的力の中心は、塾生が自らの「教師としての理念、哲学」をもつということ。

法科大学院における「実践力」の養成

立命館大学法科大学院 法務研究科 研究科長

松宮 孝明

第18回FDフォーラム 第21分科会

法科大学院における 「実践力」の養成

立命館大学法科大学院研究科長

松宮 孝明

法科大学院の任務

- 専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）
- 第2条1項「専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。」
- 第18条1項「第2条第1項の専門職学位課程のうち専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とするものを置く専門職大学院は、当該課程に関し、法科大学院とする。」

専門職大学院における授業の方法

- 専門職大学院設置基準
- 第8条1項「専門職大学院においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。」

法科大学院の教育課程

- 平成15年文部科学省告示第53号（専門職大学院に関し必要な事項について定める件）第5条
- 法科大学院は、次の各号に掲げる授業科目を開設するものとする。
 - 一 法律基本科目（憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法に関する分野の科目をいう。）
 - 二 法律実務基礎科目（法曹としての技能及び責任その他の法律実務に関する基礎的な分野の科目をいう。）
 - 三 基礎法学・隣接科目（基礎法学に関する分野又は法学と関連を有する分野の科目をいう。）
 - 四 展開・先端科目（先端的な法領域に関する科目その他の実定法に関する多様な分野の科目であって、法律基本科目以外のものをいう。）
- 2 法科大学院は、前項各号のすべてにわたって授業科目を開設するとともに、学生の授業科目の履修が同項各号のいずれかに過度に偏ることのないよう配慮するものとする。

立命館大学法科大学院の目指す 「21世紀地球市民法曹」の養成

- 「21世紀地球市民法曹」とは、グローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、さまざまな分野・専門領域において活動する法曹を意味します。グローバル化の進展によって、世界をフィールドに活躍する法曹が求められているだけでなく、地域に奉仕する法曹であっても、身近に起こる法的問題を地球規模の広がりの中でとらえ対応することが求められます。市民の立場に立って地球的視点で活動できる法曹こそ、今もっとも必要とされているのです。（<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/hoka/goaisatsu.htm>より）

立命館大学法科大学院での 「実践力」の養成

- 本学HP参照（<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/hoka/kyoiku.htm>）
- 双方向・多方向授業
 - 講義科目もそうだが、主として、各種演習
- 事例研究
 - 演習、公法・民法・刑事法の実務総合演習、リーガル・クリニック（http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/hoka/legal_clinic.htm）など
- 現地調査その他の適切な方法
 - エクスターンシップ（<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/hoka/externship.htm>）、リーガル・クリニック、外国法務演習（http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/gr/hoka/global_eye.htm）などの臨床系科目
 - * 実務についたOBが、いま、一番役立っているという！

現在の司法試験

(以下、法務省HP
http://www.moj.go.jp/jinji/shihoushiken/shiken_shinshihou_shikenqa.html#
【司法試験の概要】より)

Q1 司法試験はどのような試験ですか？

A 裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定する試験であり、法科大学院課程における教育及び司法修習生の修習との有機的連携の下に平成18年から実施されています。
試験は、短答式(択一式を含む。)と論文式による筆記の方法により行われます。短答式試験と論文式試験は同時期に行われ、受験者全員が両方の試験を受けることとなります。
なお、口述試験は行われません。

Q2 短答式試験の試験科目は何ですか？

- A 短答式試験は、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な専門的な法律知識及び法的な推論の能力を有するかどうかを判定することを目的とし、
公法系科目
(憲法及び行政法に関する分野の科目)
民事系科目
(民法、商法及び民事訴訟法に関する分野の科目)
刑事系科目
(刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目)
の3科目(???)について行われます。
*実際には、7科目もあるんだ！

Q3 論文式試験の試験科目は何ですか？

- A 論文式試験は、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な専門的な学識並びに法的な分析、構成及び論述の能力を有するかどうかを判定することを目的とし、
公法系科目
(憲法及び行政法に関する分野の科目)
民事系科目
(民法、商法及び民事訴訟法に関する分野の科目)
刑事系科目
(刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目)
選択科目
(倒産法、租税法、経済法、知的財産法、労働法、環境法、国際関係法[公法系]、国際関係法[私法系]のうち受験者のあらかじめ選択する1科目)の4科目(???)について行われます。
*実際には、8科目もあるんだ！でも、双方向・多方向を試す口述試験や臨床系の科目はないね。

Q4 平成25年司法試験の試験日はいつですか？

- A 平成25年の司法試験は、5月15日(水)、16日(木)、18日(土)、19日(日)の4日間で実施されます。

*** 金曜日の休みを挟んで
4日間も缶詰なの！ ?**

Q13 司法試験の受験資格はどのようなものですか？

- A 司法試験は、法科大学院課程の修了者及び司法試験予備試験(以下「予備試験」という。)の合格者が受験することができますが、その受験については、期間及び回数に関する制限があります(!)。
- 法科大学院課程の修了者は、同課程修了の日後の最初の4月1日から5年間の期間(受験期間)において3回の範囲内で受験することができます。予備試験の合格者については、同試験合格発表の日後の最初の4月1日から5年間の期間(受験期間)において3回の範囲内で受験することができます。

予備試験(???)

Q1 司法試験予備試験はどのような試験ですか？

A 司法試験予備試験は、法科大学院を経由しない者にも法曹資格を取得する途を開くために設けられた試験で、これに合格した者は、法科大学院修了者と同等の資格で司法試験を受験することができます(受験回数制限も同様に適用されます。)

Q2 司法試験予備試験はどのように行われますか？

- A 司法試験予備試験は、司法試験法第5条第1項において、法科大学院課程の修了者と同等の学識及びその応用能力並びに法律に関する実務の基礎的素養を有するかどうかを判定することを目的とし、短答式及び論文式による筆記並びに口述の方法により行うものとされています。

Q3 司法試験予備試験の受験資格等がありますか？

- A 司法試験予備試験には、受験資格及び受験回数の制限はありません。

Q6 司法試験予備試験の科目は何ですか？

- A (1)短答式試験
法律基本科目
(憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法)
一般教養科目
 - (2)論文式試験
法律基本科目
(憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法)
一般教養科目
法律実務基礎科目(民事訴訟実務、刑事訴訟実務及び法曹倫理)
 - (3)口述試験
法律実務基礎科目(出題範囲は、論文式試験の法律実務基礎科目と同様)
- * 一般教養を除いても、8科目もあるんだ！でも、ここでも、臨床系の科目はないね。

司法試験の合格率

- 出願者数 11, 265人
 - 受験者数 8, 387人(うち途中欠席55人)
 - 短答式試験合格者数 5, 339人
 - 合格者数 2, 102人
- * 受験者数から見た合格率は
25. 06パーセント！
- ** 法科大学院を無事修了しても、司法試験合格は大変！！

予備試験からの合格率 (2011年度～2012年度)

- 出願者8971人
 - 受験者6477人(A)
 - 予備試験合格者116人
- * 以上の予備試験合格者がその資格で司法試験を受験した結果
- 出願者95人
 - 受験者85人
 - 最終合格者58人(B)
- * B/A=0. 89パーセント！

司法試験のプレッシャーが法科大学院教育に何をもたらしているか？(その1)

- I 法律試験必修7科目の受験勉強の圧力
- ①「どう考えればよいか」よりも「どのように書けばよいか」を尋ねる傾向
 - ②「考える」より「覚える」
 - ③「理屈でどうなるか」よりも「実務でどうしているか」を重視
 - ④「予備校本」依存の傾向

司法試験のプレッシャーが法科大学院教育に何をもたらしているか？(その2)

- II 選択科目の軽視
- ①授業中の「内職」
 - ②臨床系科目の不人気・縮小
- * 受験のプレッシャーが「実践力」教育を阻害
- III 法科大学院全体の志願者の減少
- ①社会人志願者の減少
 - ②法学部以外出身の志願者の減少
 - ③法学部自体からの志願者の減少
- * 2012年度の全国の法科大学院の入学者は、わずか3150人(ピーク時の約半分)

予備試験の存在が法科大学院教育に
何をもたらしているか？

- I 法科大学院在学生在が授業を軽視
 - * ある法科大学院では、予備試験実施日に院生が大量に欠席
 - II 成績トップクラスの学部生が、法科大学院を経由しない
 - * 臨床系科目を受講しないまま最終合格へ
 - III 弁護士事務所の採用で、予備試験経由組を優遇する傾向
 - * 同じく、臨床系科目を受講しないまま採用へ
- ☆多くの法科大学院が充実した奨学金を用意している現状では、予備試験は不要

「試験対策」と「実践力」の涵養の
二兎を追わなければならない法科大学院

- I 正課
理論と実践の架橋を意識した教育
- II 課外
まさに、受験を意識した教育
 - * エクステンションセンターでの教育
(<http://www.facebook.com/ritsumeikan.extension.barexam>)
 - * * 弁護士ゼミ、短答対策、実戦答練
- III 自主ゼミ等へのアドバイスなど
 - * 私も、週3回ほどつきあっています。

資格試験が「実践力」養成を
阻害している部分がある！

- I 資格試験自体を廃止して、法科大学院の修了と一定の実務修習で資格を獲得できるようにすべきか？
 - * 最低限の水準を保証するものとしての全国統一試験は必要かも
- II 司法試験などの資格試験そのものを改革すべきか？
 - * 多様性を生かした試験への改革(必須科目の削減と英語力などを生かす選択科目の追加、臨床系科目での学びを生かした面接試験の追加など)

英語運用力を培う大学英語教育

京都大学 国際交流推進機構 国際交流センター 准教授

青谷 正妥

英語運用力を培う
大学英語教育

青谷正妥(あおたにまさやす)の
京都大学国際交流センター
准教授

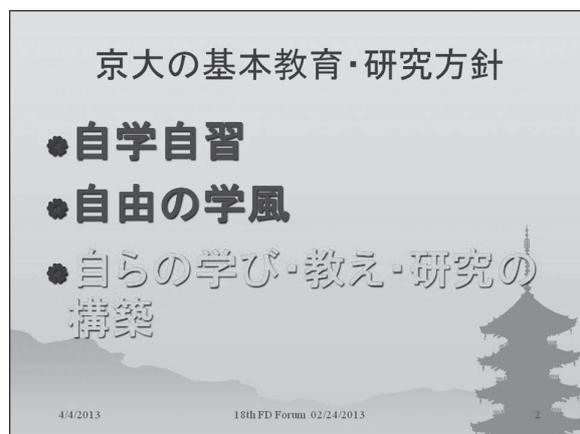
4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 1



京大の基本教育・研究方針

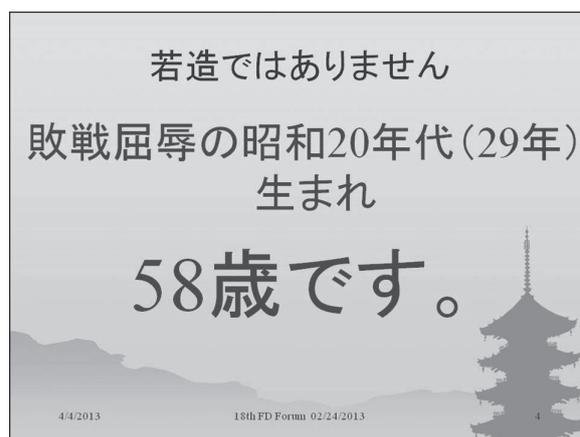
- 自学自習
- 自由の学風
- 自らの学び・教え・研究の構築

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 2



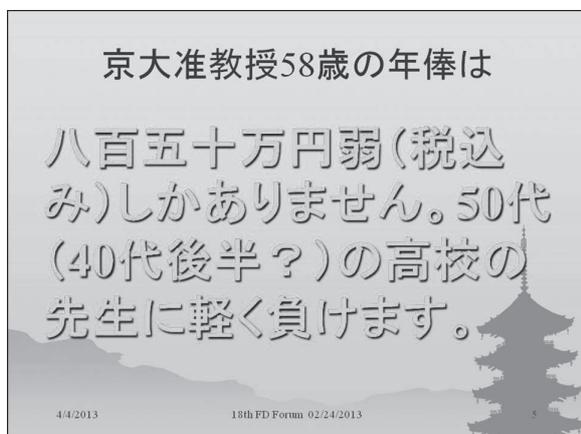
若造ではありません
敗戦屈辱の昭和20年代(29年)
生まれ
58歳です。

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 4



京大准教授58歳の年俸は
八百五十万円弱(税込み)しかありません。50代
(40代後半?)の高校の
先生に軽く負けます。

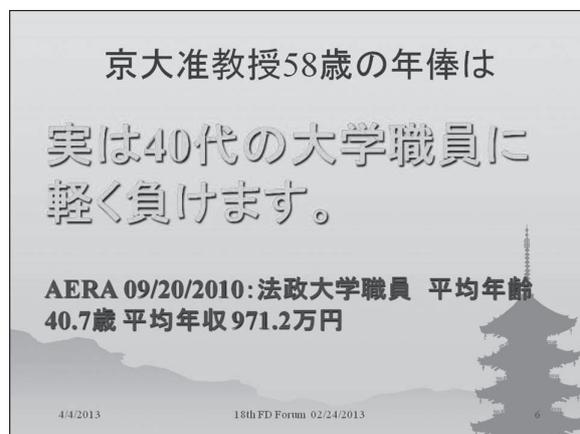
4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 5



京大准教授58歳の年俸は
実は40代の大学職員に
軽く負けます。

AERA 09/20/2010: 法政大学職員 平均年齢
40.7歳 平均年収971.2万円

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 6



大事なこと

- 大人になる・大人を作る
 - 正しく生きる: 最低限法や規則を守る
 - 好きでも嫌いでも必要であれば行う
 - 「楽しくない人には英語は楽しくない」
 - 事実・真実を厳しく見つめ、ありのままに描写し受け止める: 学問の世界では当然 >> 諦観に非ず
 - ハートの強さ: 人は大抵失敗する

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

7

大事なこと

- 講義だけで出来る訳が無い。
- 学生の努力の方が1億倍大切。
- よって、**学び方を講ずる必要がある。**
- 現状認識がステップゼロ
 - 敵を知り己を知らば百戦危うからず
 - 恥部も患部も曝け出す信用できる人間に
 - 自らの出来なさを知る

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

8

大事なこと

- 数学は論理的整合性を考えながら人間が意識的に構築した言わば線形性を備えた産物
- 言語は非線形なプロセスで自然発生した、明確な論理的枠組みの無い非線形な産物
- 言語は数学より一億倍難しい
- 日本語をしゃべらない事は出来るが、日本語で考えない事はできない
- 思考を含め英語で完結する運用力は至難: 英語で考えられる訳がない

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

9

『英語学習・教育の方法論』

第1部: 英語運用力の本質と学習戦略

- 1.1 知識の二重螺旋: 宣言的知識と手続き的知識
- 1.2 流暢さと自動性
- 1.3 流暢さ養成の4要素
- 1.4 熟成から覚醒へ
- 1.5 記憶について: 処理水準、転移適切性処理、示差的処理
- 1.6 英語教育・学習の四重螺旋: 意味重視、言語形式、流暢さ
- 1.7 精と多の二重螺旋
- 1.8 弱点の脳内データベース: DEARと拡張DEAR

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

10

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

11

青谷正妥(あおたにまさやす) 〇

- 1954年大阪市生まれ、大阪市・南大阪町・南大阪市・羽曳野市育ち
- 大阪府立天王寺高校
- 京都大学理学部(化学専攻)
- 同大学院(化学)
- メリーランド大学(化学)
- プリンストン大学(物理)
- ニューヨーク市立大学(物理・数学)
- カリフォルニア大学パークレー校(数学) Ph.D.
- テンプル大学(教育学) Ed.D.

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

12

青谷正妥(あおたにまさやす) ♂

- 父は高校の国語科教員
- 祖父は神主
- 血液型: AB
- スケボー
- 鴨川で魚すくい(寒中すくいも敢行)
- 昆虫少年

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

13

大学勤務

- アメリカの15の大学で教える
- 1998年より京都大学

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

14

企業勤務

- ニューヨークの公文教育研究会
- Geoworks: Silicon Valley (携帯などのソフトウェア)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

15

京大での講義

- 現代物理学(Modern Physics)
- 確率と統計(Probability and Statistics)
- 理系のための英語ディスカッション
- 英語の鬼・英語勉強力・英語勉強会
- アメリカの大学院・アメリカ留学百科事典
- 日本語中級(『京都大学の挑戦』)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

16

英語力

- 英語検定1級(1978)
- **GRE Verbal 89%**(1988)
- TOEIC 990, TOEFL CBT 300(2002)
- TOEFL iBT 120(2006)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

17

TOEFL
Computer-based Test
Examinee's Score Record
for the Test of English as a Foreign Language

TOEFL Scale Scores		
30	30	300
Structure	4833	72
Listening	4832	72
Writing	2672	72
Reading	2674	62
Essay Rating	6.0	

Appointment Number: 8880 0000 0024 6588

AOTANI, MASAYASU			
NAME	Family or Business, Given, Middle	Month/Day/Year	M
12/17/2002	08/05	04/26/64	
Test Center Number	4833	72	JAPAN
Test Date	4832	72	JAPAN
Institution Code	2672	72	JAPANESE
Department Code	2674	62	Native Language
Sponsor Code	XXXX	2	6
Degree			Reason for Taking TOEFL

Examinee's Mailing Address:
AOTANI, MASAYASU
RYUGAKUSEI CENTER KYOTOUNIV
YOSHIDAHONMACHI SAKYO-KU
KYOTO-SHI KYOTO 608501
JAPAN

70

Test of English as a Foreign Language • PO Box 8021 • Princeton, NJ 08541-6021 • USA

「出来ると言えば出来る、出来ないと言えば出来ない」

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

18

ETS TOEFL
Internet-based Test Examinee Score Report
for the Test of English as a Foreign Language

Test Date: 21 Jul 2006
Sponsor Code:
Inst. Code: Dept. Code:

Registration Number: 0001 0000 0242 3988

Name: AOYANI, Masayasu
Gender: M Native Country: Japan
Date of Birth: 05 Apr 1954 Native Language: JAPANESE

MO2371
AOYANI, Masayasu
Kokusai Kouryu Center
Kyoto University
Sakyo-ku Yashiro-honmachi
Kyoto, Kyoto 606 8501
Japan

TOEFL SCALED SCORES
Reading 30
Listening 30
Speaking 30
Writing 30
Total Score 120

The face of this document has a multicolored background - not a white background.

「出来ると言えば出来る、出来ないと言えれば出来ない」

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 19

典型的な京大教員の
一億倍
ネイティブスピーカーの
一億分の一

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 20

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 21

日本の大学生は
極度に鈍(なまく)ら

2013/4/4 落ちこぼれ 22

大学教育ランキング: 先進 47 経済圏
EDUCATIONAL INFRASTRUCTURE
UNIVERSITY EDUCATION
日本はブチやで単独最下位!!

有名大学のEIRと英語力
鈍ら学生!
付加価値のメソッド
競争力のメソッド

Ranking	Country	Score
1	FINLAND	8,148
2	IRELAND	7,967
3	ISRAEL	7,843
4	SINGAPORE	7,738
5	ICELAND	7,600
6	USA	7,392
7	CHILE	7,254
8	AUSTRALIA	7,250
9	BELGIUM	7,155
10	SWITZERLAND	7,102
11	NETHERLANDS	7,049
12	AUSTRIA	6,867
13	CANADA	6,806
14	HUNGARY	6,750
15	NEW ZEALAND	6,536
16	DENMARK	6,414
17	PHILIPPINES	6,351
18	SWEDEN	6,311
19	CZECH REPUBLIC	6,203
20	TAIWAN	6,200
21	GERMANY	5,741
22	UNITED KINGDOM	5,700
23	NORWAY	5,667
24	FRANCE	5,473
25	INDIA	5,291
26	MALAYSIA	5,237
27	COLOMBIA	5,200
28	POLAND	5,200
29	BRAZIL	5,135
30	SOUTH AFRICA	5,119
31	PORTUGAL	5,000
32	SPAIN	4,943
33	TURKEY	4,921
34	HONG KONG	4,917
35	THAILAND	4,738
36	RUSSIA	4,732
37	MEXICO	4,707
38	LUXEMBOURG	4,522
39	ITALY	4,376
40	ARGENTINA	4,328
41	SLOVENIA	4,189
42	INDONESIA	4,163
43	KOREA	4,114
44	GREECE	3,878
45	CHINA	3,822
46	VENEZUELA	3,667
47	PERU	3,390

2013/4/4 23

1	FINLAND	8,148
2	IRELAND	7,967
3	ISRAEL	7,843
4	SINGAPORE	7,738
5	ICELAND	7,600
6	USA	7,392
7	CHILE	7,254
8	AUSTRALIA	7,250
9	BELGIUM	7,155
10	SWITZERLAND	7,102
11	NETHERLANDS	7,049
12	AUSTRIA	6,867
13	CANADA	6,806
14	HUNGARY	6,750
15	NEW ZEALAND	6,536
16	DENMARK	6,414
17	PHILIPPINES	6,351
18	SWEDEN	6,311
19	CZECH REPUBLIC	6,203
20	TAIWAN	6,200
21	GERMANY	5,741
22	UNITED KINGDOM	5,700
23	NORWAY	5,667
24	FRANCE	5,473
25	INDIA	5,291
26	MALAYSIA	5,237
27	COLOMBIA	5,200
28	POLAND	5,200
29	BRAZIL	5,135
30	SOUTH AFRICA	5,119
31	PORTUGAL	5,000
32	SPAIN	4,943
33	TURKEY	4,921
34	HONG KONG	4,917
35	THAILAND	4,738
36	RUSSIA	4,732
37	MEXICO	4,707
38	LUXEMBOURG	4,522
39	ITALY	4,376
40	ARGENTINA	4,328
41	SLOVENIA	4,189
42	INDONESIA	4,163
43	KOREA	4,114
44	GREECE	3,878
45	CHINA	3,822
46	VENEZUELA	3,667
47	PERU	3,390

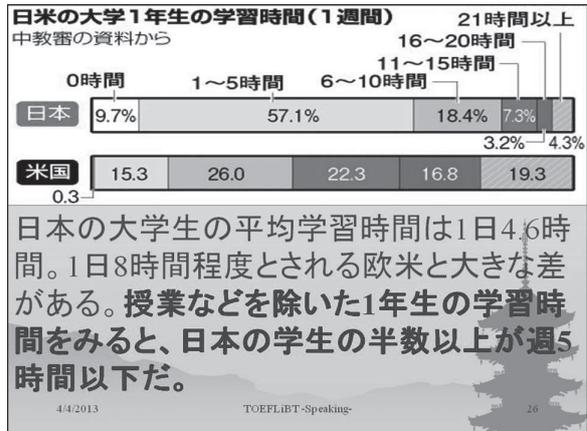
2013/4/4 24

文科省も本腰

2013/4/4

落ちこぼれ

25



大学生に勉強させよ

...対策の大学に財政優遇案(読売)

中央教育審議会の大学分科会大学教育部会は、学生の勉強時間を調べたり、勉強時間を増やす方策を講じたりした大学を、財政面で優遇すべきとする素案をまとめた。勉強しない学生を放置する大学に改善を促す狙い。大学分科会の審議を経て、文科省は2013年度にも実施する方針。大学生を勉強させるために、とうとう国が尻をたたく。

4/4/2013

TOEFLiBT-Speaking-

27

国費の無駄遣い

京大生の教育には一人頭毎年172万円

授業料61万円

国や大学の負担分は111万円

勉強・研究に励むのは義務

学生1人当たりの教育関係経費 172万円

(運営費交付金収益等 111万円)

国民1人あたりの負担は京大全体で年額769円

4/4/2013

TOEFLiBT-Speaking-

28

無能教員

- 例えば、京大の教員の大多数は京都大学医学部に入れない
- 英語教員の大多数はTOEICすらできない
 - 毎回日本人だけで何十名もの満点獲得者: そのほとんどが、エンジニア・医者・他分野の学者・弁護士など
- 方や学生にはTOEFL iBT 120点の人もある

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

29

- 日本人は勤勉ではない
 - アメリカ人にぼろ負け
- アメリカの常識: 夜や休日の駐車場に車が多数止まっていない様な会社や大学は信用してはいけない
- 日本人は底生動物に成り下がっている
 - ProcessでもProductでも
 - 努力でも結果でも

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

30

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

31

日本人の英語力

- **1996年にはアジアで最下位**
(TOEFL PBT)
– ライバルは北朝鮮・タイ・モンゴル
- **2007年にはアジアで下から二番目**
(TOEFL iBT)
– ライバルはカンボジア

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

32

日本人のSpeaking

- 2007年TOEFL iBTに於けるSpeakingのスコアは30点中15点で日本が**単独世界最下位**

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

33

京大生のSpeaking

	読む	書く	聞く	話す	総合
日本人	16	18	16	15	65
京大生	23	22	19	15	78
全受験者	19	20	19	20	78
Princeton	29	27	28	24	108

単独世界最下位

4/4/2013

TOEFL iBT-Speaking-

34

Writing

- **18点**
- **世界最低より1点上**

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

35

1898年にビスマルクは:
「20世紀を決める最大の要素は英語だ。北米人が英語を話すからだ。」

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

36

2002年7月12日に文部科学省は：
「英語が使える日本人の育成のための戦略構
想」
を策定した。

一世紀以上の遅れ

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

37

言語習得的大人とは

- 音の聞き取りレベルでは生後7か月
- 文法の吸収学習は5.6歳?
- 語彙は一生かかって身に付ける:但し、...

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

38

大人の英語学習の最大の特徴

ほぼ全員が失敗する。

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

39

大人の英語学習の特徴

- 普通は失敗する
- 基本的に『勉強』である
- 意識的な部分が必要

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

40

- 英語圏に住んでも、意識的な勉強が無ければ英語が出来る様にはならないし、日本に居ても、計画的・多角的・意識的・組織的学習をすれば英語が出来る様になる。(かくしきを重んじる)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

41

とにかく

大人の運用力養成は勉強である。
(勉強とは意識的・意図的活動)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

42

かくしきを重んじる

- ❁ 計画的・本格的・多角的
- ❁ 意識的・組織的・形式的
- ❁ 知識と確認

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

43

知識

- ❁ 語彙・表現・発音等の知識
- ❁ 学習法についての知識
- ❁ そして、もう一つの知識である手続き的知識

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

44

おしながき

- ❁ 青谷正妥について
- ❁ 鈍ら学生と無能教員
- ❁ 日本と世界
- ❁ 英語力のあるべき姿:知識の二重螺旋
- ❁ 流暢さと自動性
- ❁ Expertise: 10年・1万時間
- ❁ Outputの大切さ
- ❁ 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- ❁ Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

45

宣言的・顕在的知識

自転車の各部の名前

- ❁ 口で説明できる
 - 単語の辞書的意味
 - イディオム
 - 文法のルール: 三単現のs

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

46

手続的・潜在的知識

実際に自転車に乗れる

- ❁ 出来る(体・頭が覚えている)が言葉で説明はできない
 - 文法のルールの正しい適用

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

47

中学・高校では

- ❁ 殆んどが宣言的知識
- ❁ 口で説明出来る事をやる授業の宿命

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

48

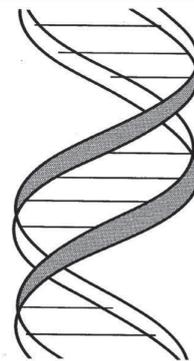
究極の手続き的知識

- 英語の運用能力
 - 聴解(ノーマルスピード)
 - 読解(頭から・非暗号解読的)
 - 作文(和文英訳に非ず)
 - 流暢な会話

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

49



宣言的知識 手続き的知識

知識の二重螺旋：宣言的知識 vs 手続き的知識

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿：知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

51

最大の問題

- 手続き的知識(=技能)が弱いと
- 宣言的知識に頼り
- 処理速度も「英語らしさ」も低下
- 流暢ではない
- Automaticityが無い(自動化されていない)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

52

流暢さ養成の四要素

- 確実に広範な宣言的知識(chunksも学ぶ)
- 量をこなす(Time-on-Task)
- 反復(Repetition)
- 時間制限(Time Pressure)
- 多く・何度も・速く(おおく・はやく・なんども)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

53

究極の流暢さ=自動性

- 意識的努力無し
- 止められない
- 負荷が無い
- 並列処理が可能

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

54

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

55

熟練一般

- 10年・1万時間が目安(毎日3時間を10年間)
- チェス: Bobby Fischer
- モーツァルト: 作曲
- イチロー: 打撃
- アメリカ人の赤ちゃん: 5歳児までに2万時間
弱の英語を聞く

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

56

京大一回生に言う事

- 今すぐ始めれば、
- 2回生で上達の手応えが有り、
- 大学院に入る頃には、
- 相当出来るようになる。
- しかし、
- 本当に出来るのは、
- 多分10年後ぐらい。
- 卒業後も訓練を続けたとして...

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

57

Hakuta: 諸言語→英語

- 移民の子供: 小1からアメリカ
- 勉強に十分な英語力(ネイティブ未
満)に、最低4年、時に7年
- 中学終了時にやっとネイティブス
ピーカー*レベル*の人多し
- 勿論成らない場合も有る

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

58

Swain: 英語→フランス語

- 英・仏二言語政策のカナダ
- 英語家庭の子供に仏語で小学校教育
- 6.7年後、
- 理解力(読・聞)等はネイティブ並み
- 作文・会話: ネイティブは決して犯さない文
法・構文の誤り

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

59

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

60

Outputの大切さ

- Inputは意味に引っ張られた言語処理: 文を精査しない
- Outputには、文法的・構文的処理が肝要: 詳細に留意
- Outputは、より意識的

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

61

Outputの大切さ

- 気付き: 知識・技能のギャップ=問題認識
- 確認: 意味が通じることにより
- より深い脳活動: 言語的記憶にも結び付く
- 脳内の言語能力・言語的知識を精製し、結晶化させる

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

62

Outputにより

- 言語の内在化: 英語が自分の物になる
- 言語を自ら操る: 「言語とは何か」をより明確につかむ

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

63

言語の内在化

- ◆ 宣言的知識は言語に特化してはいない脳の一般機能にも頼る
- ◆ 『内在化』とは、宣言的知識の支配をはなれ、手続き的知識として言語システム内部に存在するようになること: 自動性の保証
- ◆ 言語システムは他の機能から隔離され、堅牢さ故に、非言語的要因の影響を受けない
- ◆ 非言語的活動との並列処理が可能

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

64

「英語で考える」への第一歩

- 英語を喋れるから英語で考えられる
- 英語で考えられるから英語が喋れるのではない
- 最初は「脳内の日本語」の内容を英語で言う

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

65

おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

66

言語の起源と進化

- ◆ 10万年前ネアンデルタールは新生児の口・喉
- ◆ **ジェスチャー**から言語が始まった
- ◆ しかし、狩猟等の作業に手を使いたい
- ◆ 現在のような**言語の進化**は5万年前に「話す・聞く」活動から始まった
- ◆ 言語のルーツは言うまでもなく「話す・聞く」
- ◆ **聞けて喋れる人が読み書きを習うのがネイティブ**の言語能力(国語力)養成

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

67

話す・聞くが主導 1

- ◆ 世界には**文字の無い言語の方が圧倒的に多い**
- ◆ **7,000**近くの言語
- ◆ **文字**が有るのは**750**言語
- ◆ **6200**言語には**文字が無い**
- ◆ 人類の96%が4%の言語を話す
- ◆ 言語の96%は人類の4%が話す
- ◆ **毎月2言語、21世紀に1,000から2,000語が消滅**
- ◆ 英語・中国語・スペイン語・アラビア語・マレー語・ヒンディー語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・日本語

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

68

話す・聞くが主導 2

- ◆ **どのヒトの集団にも話し言葉**:書き言葉との相違
- ◆ **話し言葉の歴史(5万年前)**:書き言葉(数千年)
- ◆ 成長過程で、**話し言葉の習得が先**:書き言葉は一生習得しないこともある。
- ◆ **話し言葉は教えられなくても身につく**:書き言葉は学校等で習う(たいていは成功する話し言葉の完全な習得:書き言葉の習得には失敗することがある)
- ◆ **脳には話し言葉のみに特化した機能**:書き言葉への特化度は低く、他の機能と共有する部分も多い。(青谷注:部位が広範でも機能として特化)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

69

話す・聞くが主導:まとめ

- ◆ **ほとんどの現代語は話す・聞くのみ**
- ◆ **読む・書くは言語という観点からは副次的**
- ◆ **話し言葉は生物進化の過程で自然に現れた**:書き言葉は半ば人工的な創造物
- ◆ **書き言葉は話し言葉を下敷きとしてしか存在しない**

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

70

Speaking

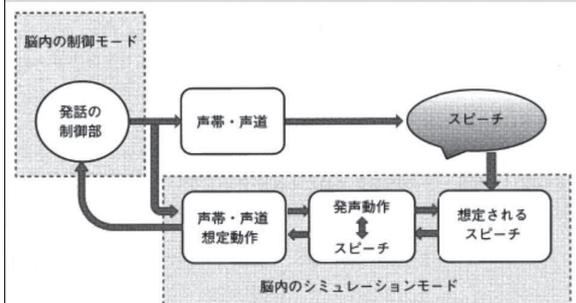
- ◆ 明らかに「**書く**」力を下支え
- ◆ 「**読む・聞く**」力の横支え
- ◆ 「**書く・聞く・読む・考える**」力を支える
- ◆ **Listening/Readingは言語習得のインフラ**
- ◆ **Speakingは習熟する為のインフラ**

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

71

ListeningとSpeaking



Speakingを先行させなければ

- 英語学習は成立しない！

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

73

さらにSpeakingの利点

- アウトプットの量を稼ぐ
 - ツール無しで出来る
 - 単位時間辺りのアウトプットが多い
 - 実は体力の消耗も少ない

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

74

聞く・話す

- 話すほうが難しい内は初心者
- 聞く方が遥かにむずかしい
- 日本人通訳者は日→英
- アメリカ人通訳者は英→日
- ひとつの目安に

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

75

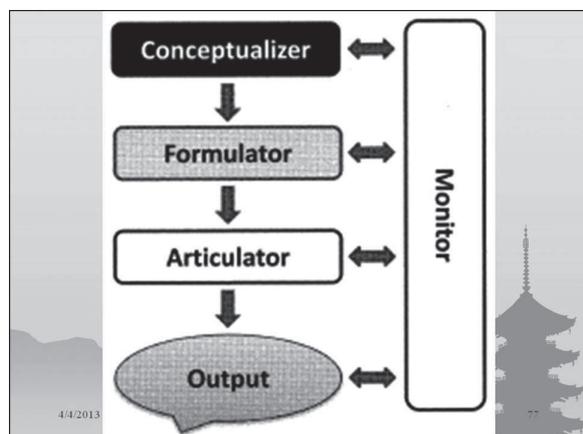
おしながき

- 青谷正妥について
- 鈍ら学生と無能教員
- 日本と世界
- 英語力のあるべき姿: 知識の二重螺旋
- 流暢さと自動性
- Expertise: 10年・1万時間
- Outputの大切さ
- 言語の進化と『話す・聞く』の優位性
- Speakingの練習法

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

76



4/4/2013

77

8種の訓練

1. 15/45 Exercise (時限訓練15/45)
2. Free Translation (意・略・概・ズレ・自由訳)
3. Picture Task (絵の描写)
4. Oral Composition (口頭作文)
5. Summary Task (要約)
6. Pair Work (二人で練習)
7. Write and Speak (作文をもとに話す)
8. Recording (録音)

4/4/2013

18th FD Forum 02/24/2013

78

語彙

- 7,000から10,000語
- 丸覚えが必要不可欠
- 京大生はせいぜい4,000語
- 「JACET8000英単語」: 大学英語教育学会
- TOEFL用の単語
- 英和タイプの辞書・書物で覚える
- 実際の生息環境を多読・多聴等で学ぶ

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 79

- 「最初から英語で考える」
- のではなく、
- 「脳内の日本語を和文英訳する」
- のでもなく、
- 「脳内の日本語の内容を英語で表す」
- 上流にある概念・思考・意図の意識・略訳・概訳・ズレ訳
- 逐語訳ではない

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 80

- 他の勉強・研究・技能習得、更には人生その物、と同じで長丁場です。

太く・長く・多く 厳しく

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 81

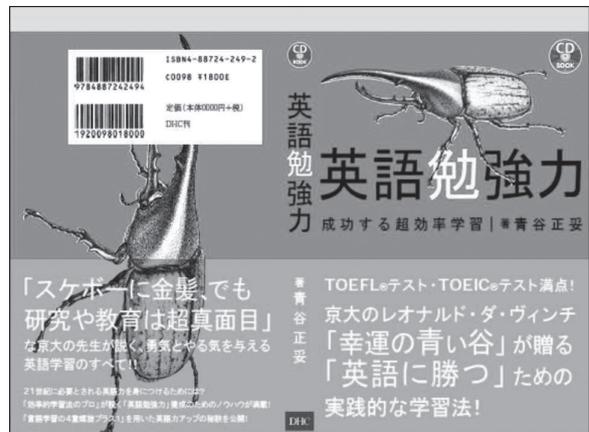
母語話者と日本人

- 母語話者: 小学校入学までに17,000時間以上の英語に触れる
- 日本人: 中高で3,000時間の英語に触れる
- 『中・高6年間もやったのに英語が出来ない』のではなく、『6年間しかやらなかったから英語が出来ない』
- 因みに数学等も同じ。

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 82



4/4/2013 83



4/4/2013 84



● 印税は0%
 ● 原稿買い上げではない
 ● 勿論自費出版でもない
 ● 勢力拡大のための本

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 86

表紙が青い訳

青コーナー
つまり
挑戦者のコーナー

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 87

Forever BLUE

● 生涯青コーナー
● 挑戦を続ける

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 88

応用統計学・現代物理学

- http://aoitani.net/Applied_Statistics.pdf
- http://aoitani.net/Modern_Physics_2013.pdf

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 89

個人情報

青谷正妥(あおたに まさやす) ♂

プロモーションビデオ

http://aoitani.net/Go_on_AOTANI.wmv

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
 京都大学国際交流センター
 aotani@aoitani.net http://aoitani.net/
 PHONE 075-753-2568

4/4/2013 18th FD Forum 02/24/2013 90